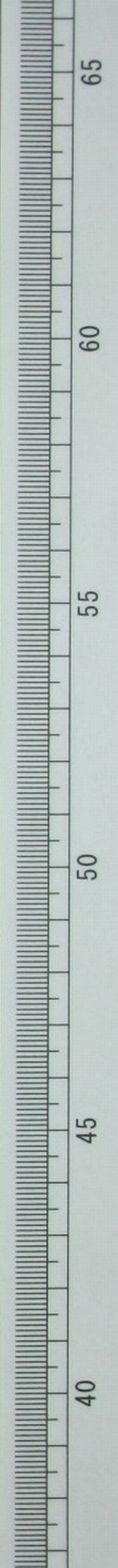




小倉文庫
イ 16
14



門 116
號 14
卷



寬永四年玄光序跋

劫記

四卷本

上下二冊

昭和二十七年
六月二十一日
受入

塵劫記卷之三目錄

十七 換地の事

十八 知り抽ぬの事

十九 金堀れなうりりり付抽よをす積の事

二十 林木の事



勘地

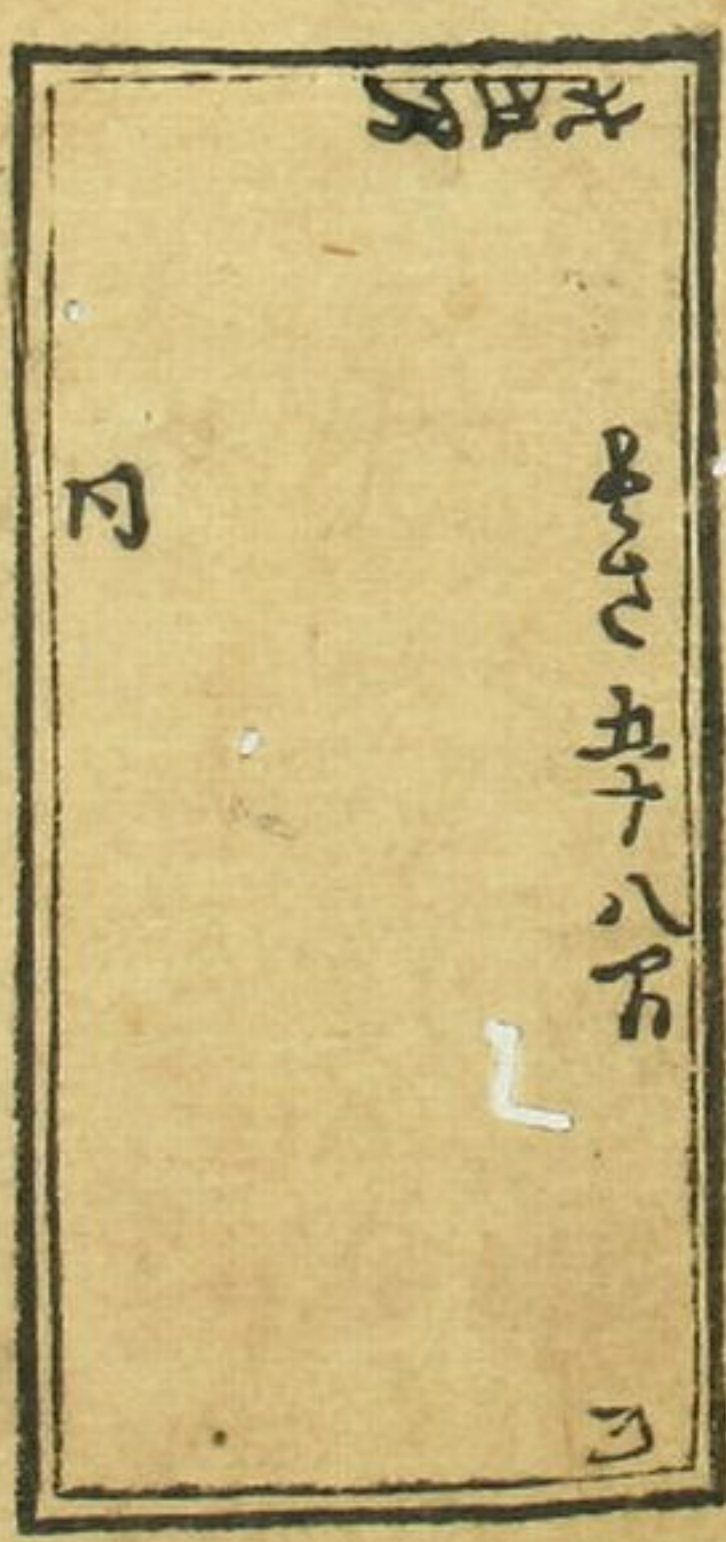
田十歩



中七

勘地のし

〇四反八畝十歩



はらまを換り男老有ま五から此の千四百五拾坪
なる是と田の法三にて割時四反八畝十歩と割

〇二反一畝廿八歩九分



はらまを世五反二尺六寸となるはらまを一げんりか

り入り 六尺五寸をくくれば廿三丈一尺寸より
又右より十八間四尺と進て一けしよりくく
六五をくくれば十二丈一尺とよりこれを右に
廿三丈一尺寸よりくくれば一丈の坪或百七十八坪
四合よりき色ゆたかあり 二山を一坪の法
四二二五にしてはれは右の格八坪ありと
きりし これを田の法三よてはれは二畝一畝
廿八歩の分りゆきあり

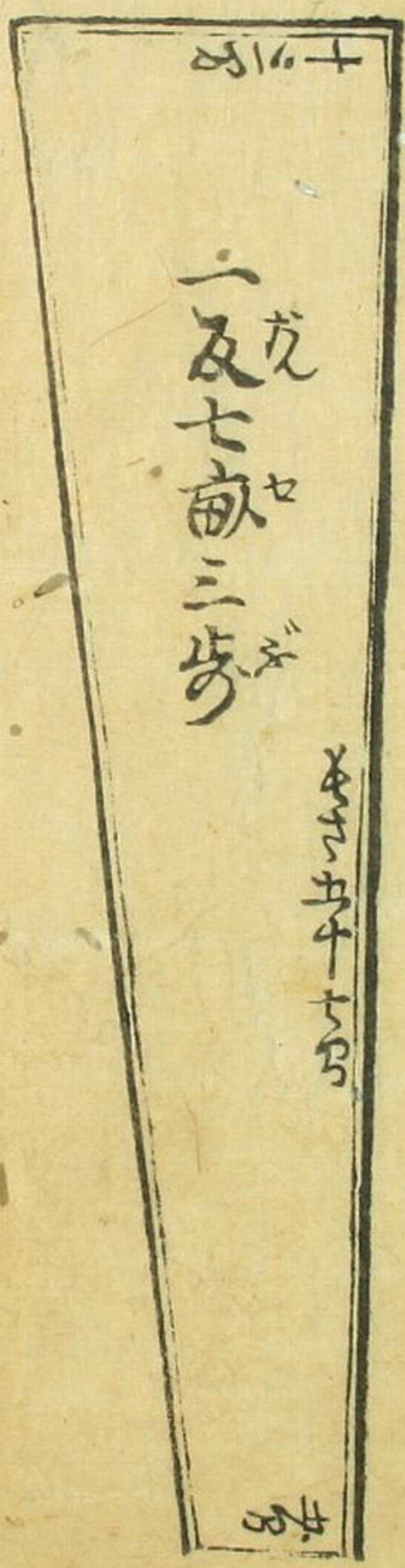
田を五間二尺六寸を時尺より
きこの二尺六寸と六五をてはれは廿五間四と

る所又横十八間一尺を四尺りりを六五よて
はれは十八間六尺又一寸あまりあつたハ
寸をくくればなりききしを右よをきてはれは

〇右の廿八坪を分りたりとたるとり
まゝ右とちがひきたくくのまゝと
よまゝと也あつたやうに用りあり一けしより
尺寸をくくれば六五をてわけてはれは八と
よ 又まゝハたすともくく入て
あつたはれは右のまゝと
かゝる

一畝廿八歩合あり とき七十六方

法一と七十六方より五尺をかくれも三八と成
 二心と五尺にして五尺の倍八坪中より六りと成
 是を田此法之にして刻を一畝廿八歩四分六りと
 三ある



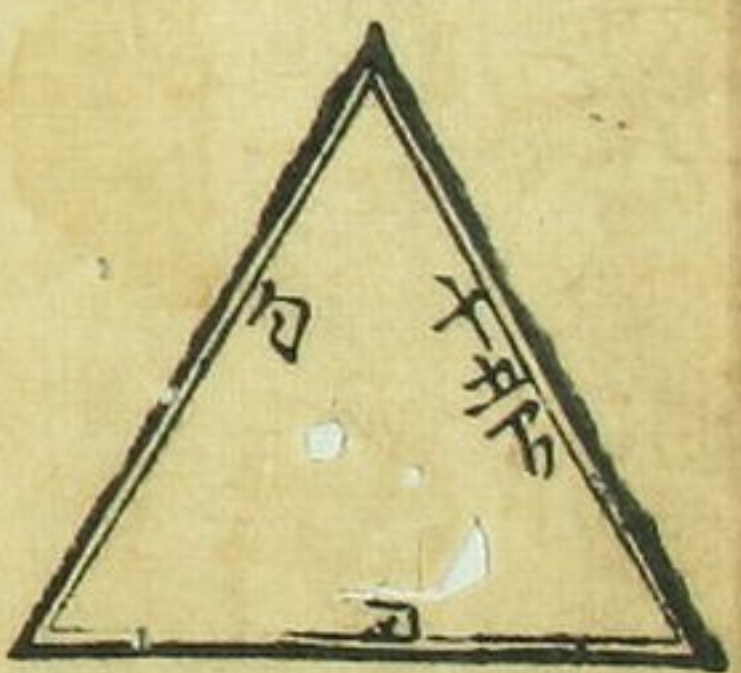
法一と七十三方より又五方をとくより心より
 十八方より成二心と二ツよりわふ時九方より成是を
 是の四十七方より成心八五百十三坪とあり二心と
 田の法之にしてより時一及七畝三歩あり

〇八畝



法一十二方と二ツよりわり六方より成これと
 かくき四拾方より成れを或百四拾坪よりなる
 是を田此法三より成あり時八畝とあり

○三畝七歩四分



法より十五畝九右より垂くこれと或る七五坪より
これより又三畝の法四三三をからふとまきま
九拾七坪二分ニリ也也よ此を田の法三由て
刻時より三畝七歩四分ニリ也也とあるへし

○八畝十二歩



法より横十八方と二ツより下り九方より下り
これとまき廿八畝より下り此畝百五十二坪より
是と田の法三より下り此畝十二歩とあるへし

○九畝三歩



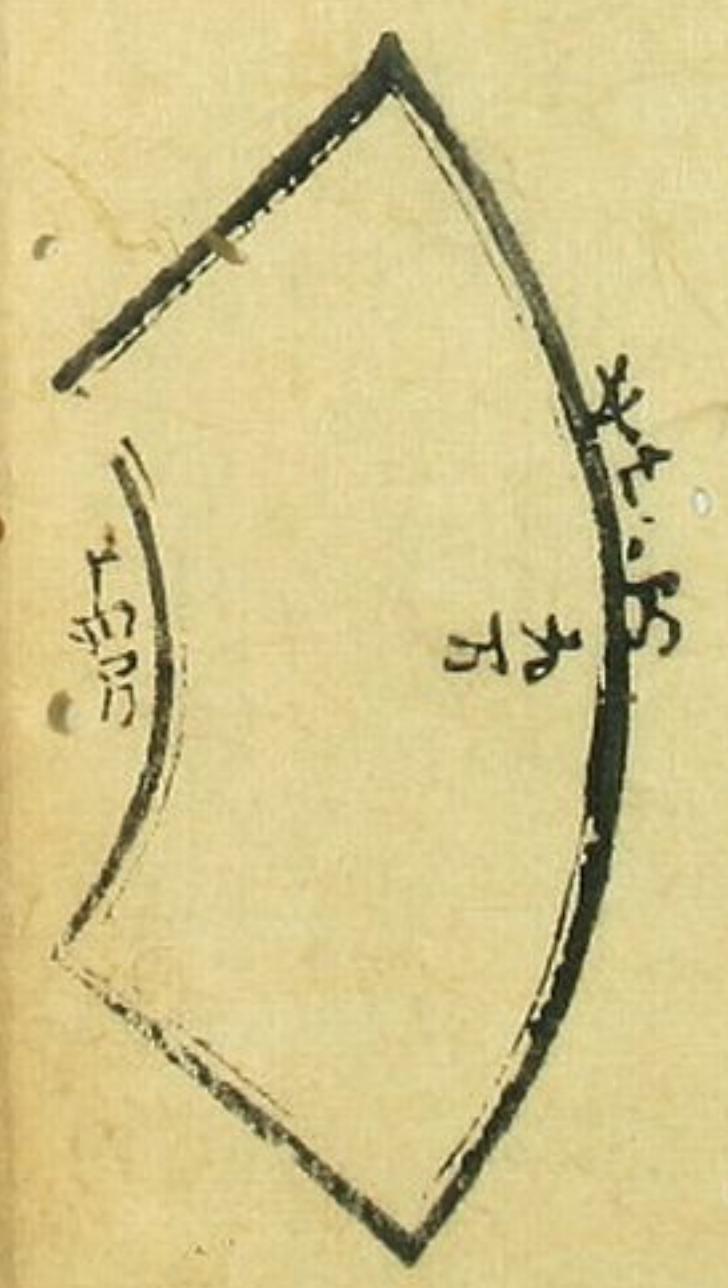
法より横十四方と二ツより下り七けんより下り
これとまき廿九下りより下り此畝百七拾三坪より
是と田の法三より下り此畝三歩とあるへし

〇一及一畝の歩



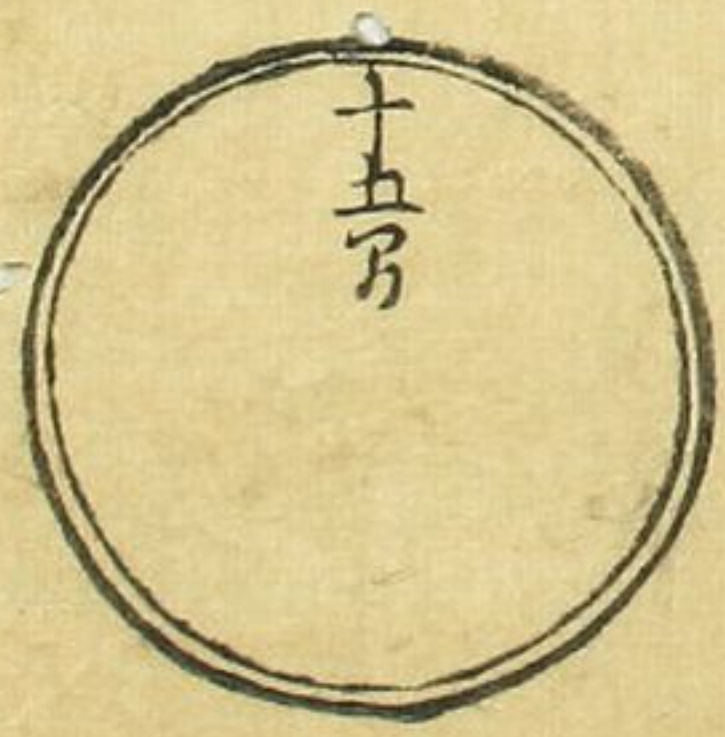
法より二十六けんの中廿八間をとり足して
又十一間をとり足す時合廿六間よりなる是を
三ツより引く十二間と成是より廿八間より引
く百廿六坪と成田法にて刻一畝一歩と成

〇六畝の歩



法より廿八間より十四間より今時四拾二間より
是二ツより引く廿一間より是より九間より引
く百八十九坪よりなる田法にて刻一畝一歩と成

〇五畝廿七歩七分あり



法より十五間より右より五間より引くは百廿五坪より
なる方より引くは五間より法七間より引くは百
百七十七坪よりなる方より引くは五間より引くは
百八十九坪よりなる方より引くは五間より引くは

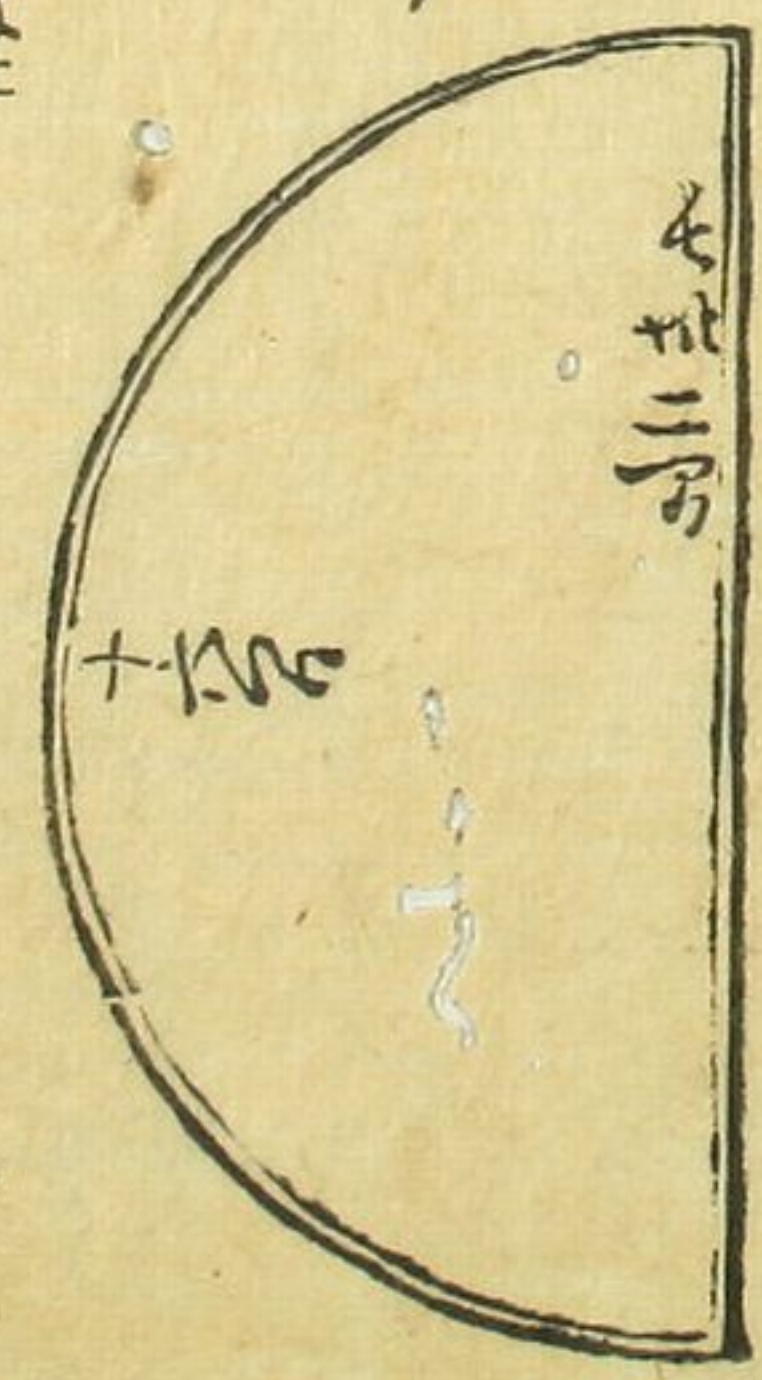
○五畝七歩七分五厘



法一四三〇一わしうしぬ時しまわりを
うしぬきり四拾七尺二尺六寸あり二尺六寸
りりを六五よてわしえ四十七尺四寸を
こしを四きめり此法三一六よてわし時
まろきさしわし十五けんをちりへし
は十五尺を左右よときからぬゆら廿五坪も成
まろき法七九よてわし百七十七坪七厘五厘と

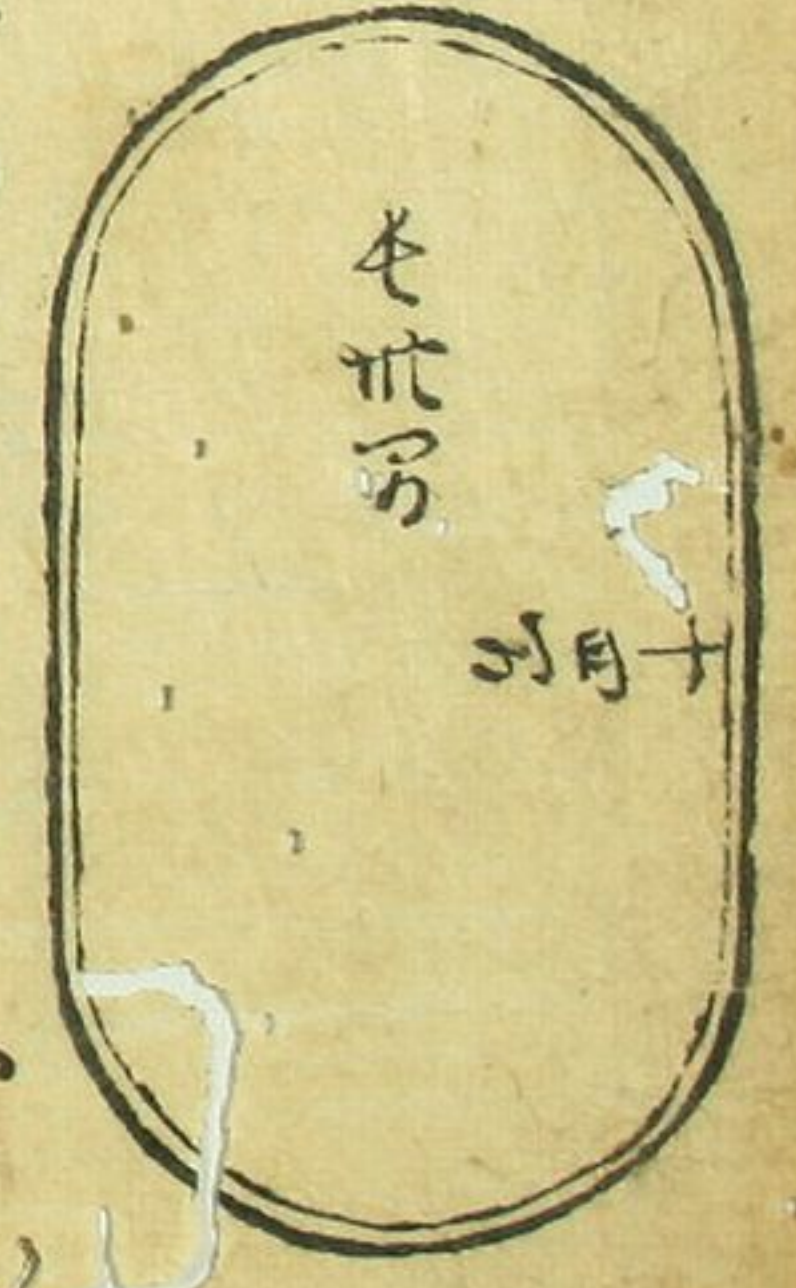
るふかりを田の法まにわしとまろき
五畝七歩七分五厘とちりへし

○一及三畝十四歩四分



法一かろき廿二方り撥十六方とくれを
五百十二坪ぬしなるりこれり又まろき法
七五をかくれえ四百四坪四分ありよなるは
田の法三よてわしをきり一及三畝十四歩
四分ありなる

一及二畝十八歩八分四厘



法よき世のうちにをよこ二十四町一町は約七
十六町を是よ十で町をくらぬる或百七十四坪は
これと右よへちよ垂又右よ十四町充右よをき
くらぬる一九六よなり是よぬき法七九くらぬる
百ぬ十に坪は分四りとぬこれと右よよくらぬる
町よ三百七十八坪は分四りよぬこれと田の法
三てこれの一及二畝十八歩八分四りとちりこ

七四十五町

一及九畝廿四歩

七五十四町

十一町



法よきさの格四町よ四拾五町をくらぬる町一
九拾カ方よろり二町ふくらぬる四十九町をくらぬ
これよ横十二町をくらぬる五百九十四坪はぬ
これと田の法三よをわらへ

一及二畝四歩



七廿五

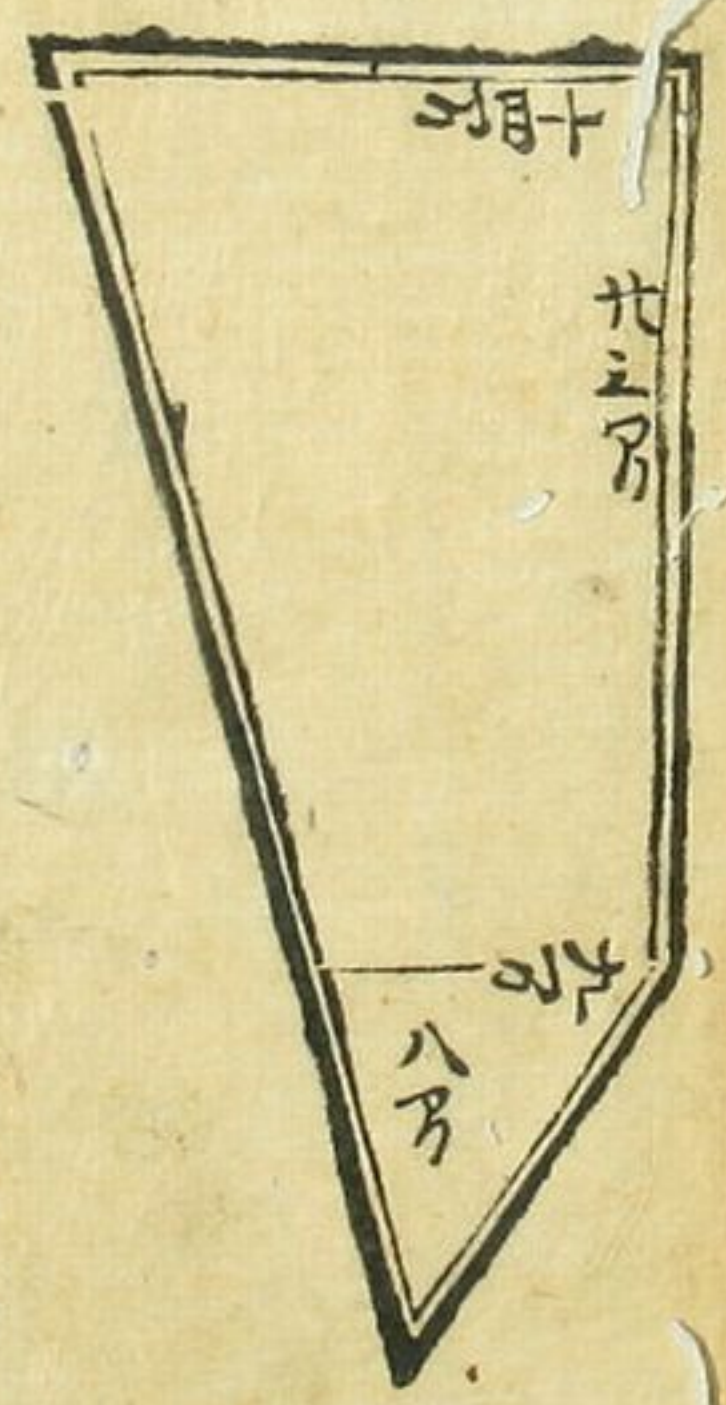
法一、一畝六歩と二ツよはれ、十三畝
あり是を廿八歩りかくれを三百六十四坪と
する、この法を田は法三にすむとす、
一及二畝、歩とあり、

〇一及一畝十二歩



法一、一畝六歩、廿八歩り、
三百六十四坪、
この法を田は法三にすむとす、
一及二畝、歩とあり、

〇一畝五歩



法一、十四けんよ九歩とす、
この法を二ツよはれ、
法一、十四けんよ九歩とす、
この法を二ツよはれ、
法一、十四けんよ九歩とす、
この法を二ツよはれ、
法一、十四けんよ九歩とす、
この法を二ツよはれ、

〇一及十二歩



法は十六歩ニツよわりとまき八歩は双これ
と世九歩よりくぬれ三百十二坪は田法三より
おれえ一とん十二歩おしきあゆ

〇一及三畝十五歩



法は九歩よりくぬれ三百十二坪は田法三より
おれえ一とん十二歩おしきあゆ

四十五歩より一畝ニツよわり時廿二畝もんは
これよ横十八歩よりくぬれ四百五坪は田の法
三よりおれえ一及三畝十五歩とまらへ

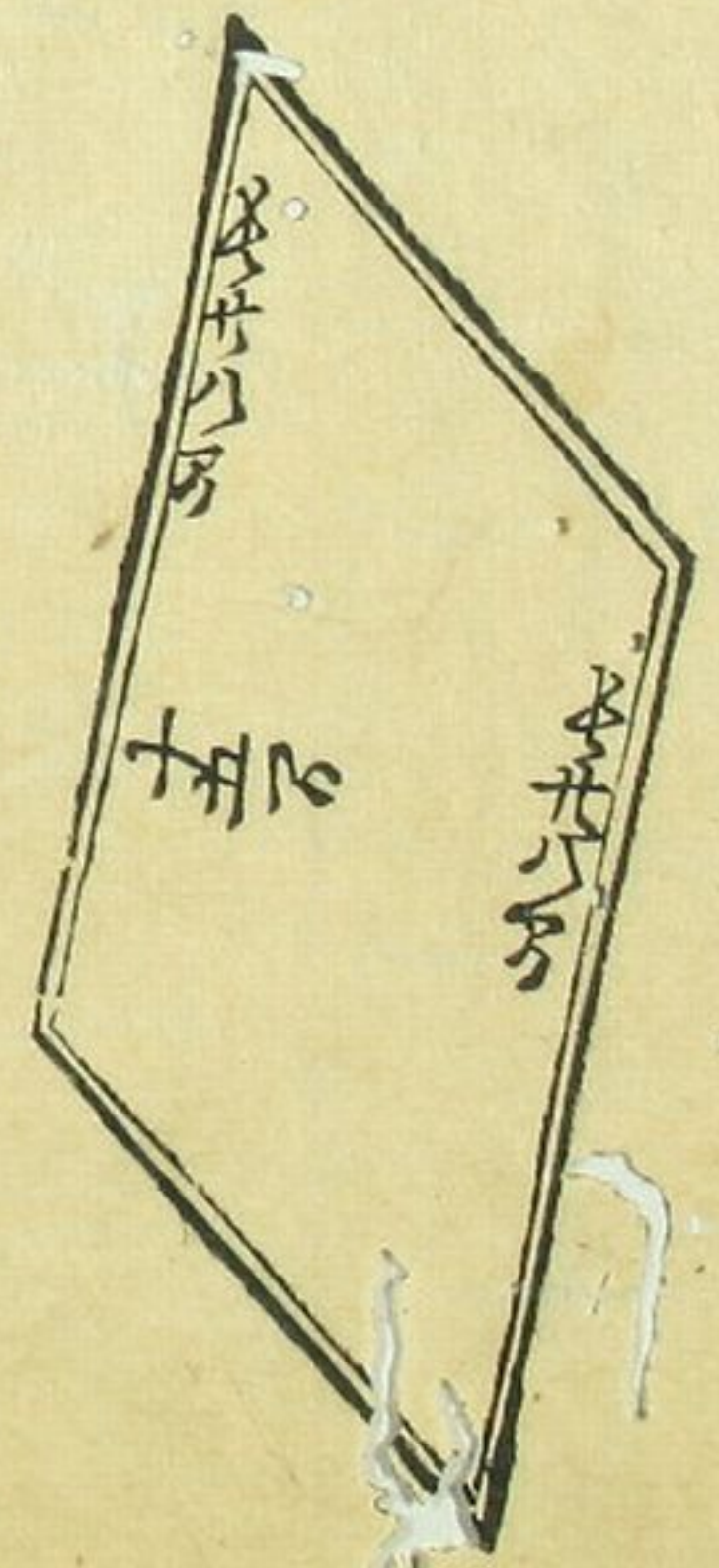
〇一及三畝十九歩



法は世九歩より十八歩をかくれ七百二坪は
これを右よへちし五〇又六歩はけと九歩の
よりよりくぬれ時十五歩は双と二ツよわり
七百坪は是よ世九歩よりくぬれ四百十二坪は

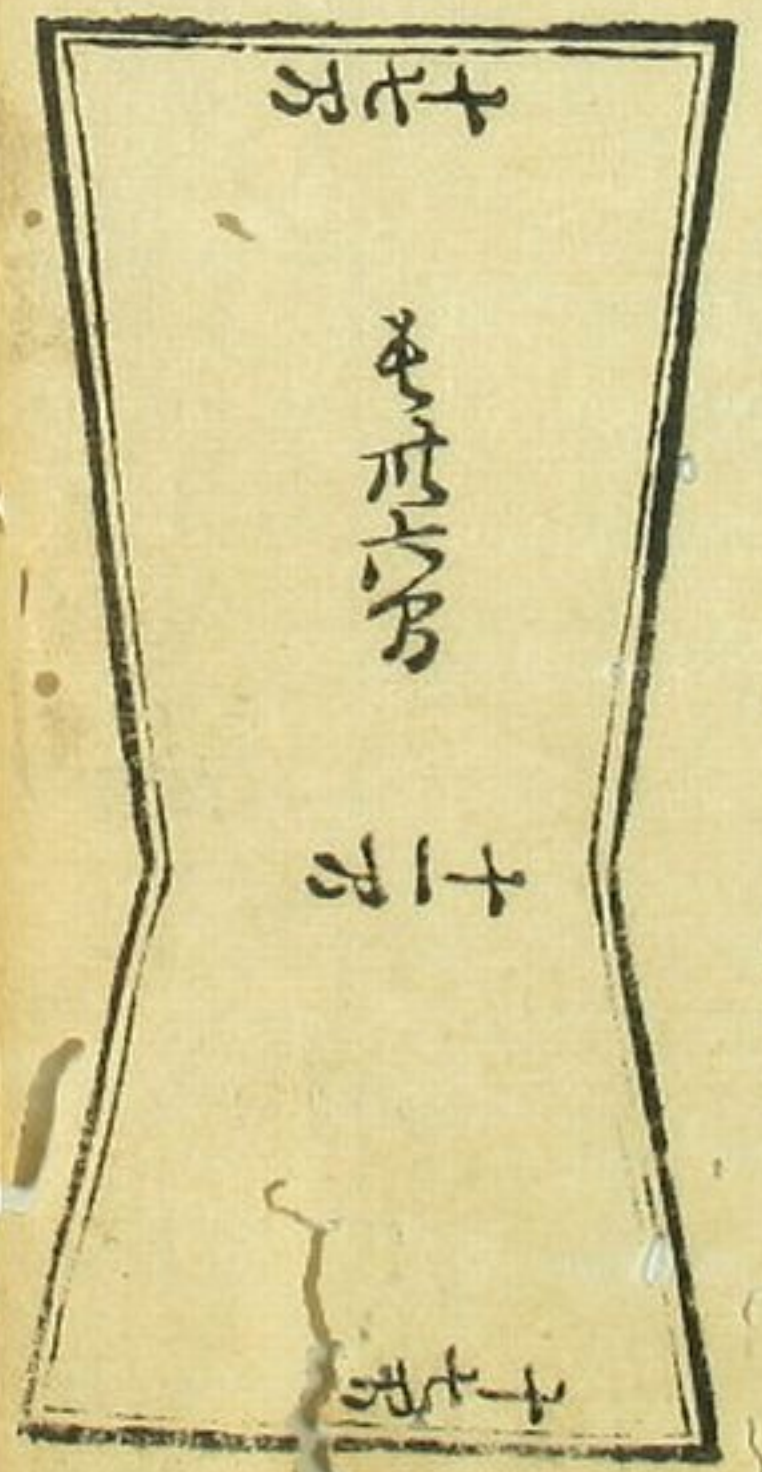
有り是程右の内と引付砂て四百九坪ある
 田の法三にて引取の右とくくまればしるわ

〇一畝四前



法よ是廿八方より十五方とくれば是より廿坪は
 田の法三にて引取の右とくくまればしるわ

〇一畝六畝廿四歩



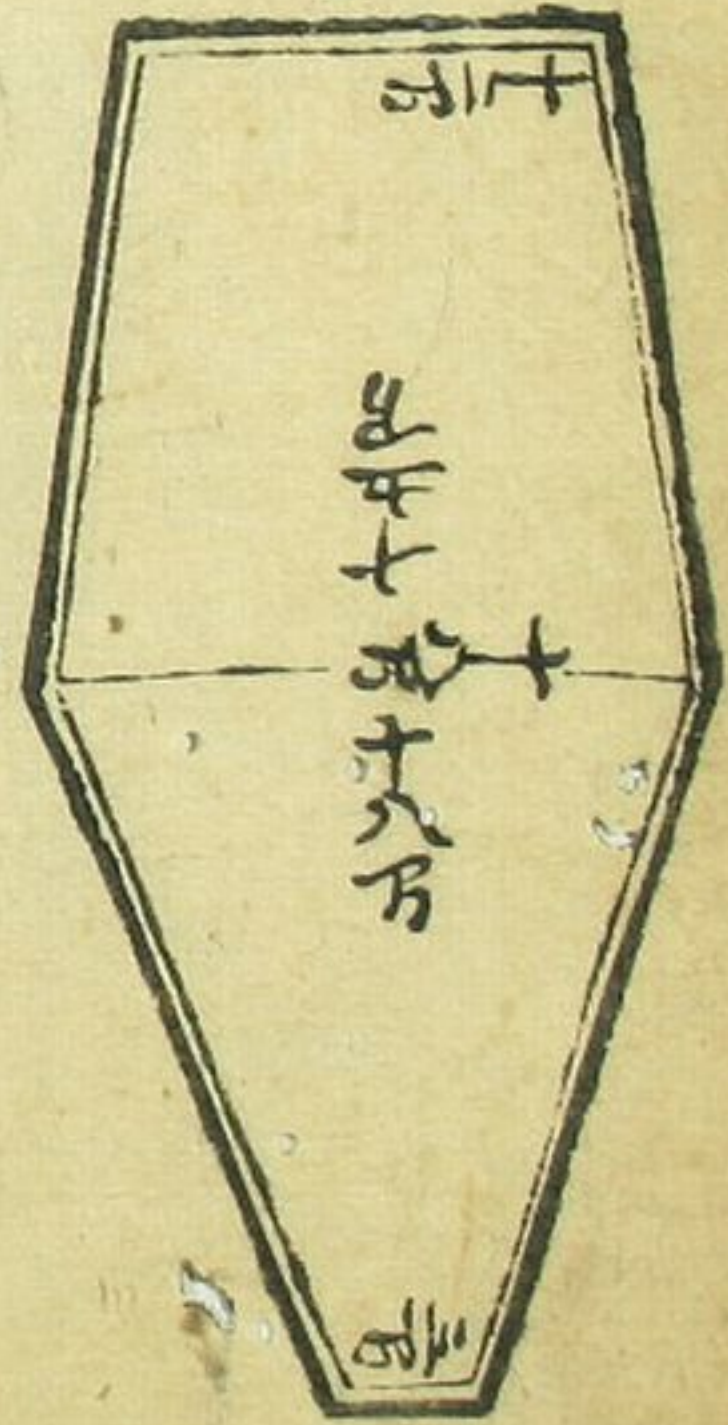
法よ十七方より十一方とくれば是と又一倍より
 廿六方とくれば是より四つは刻を拾四坪より
 これよ是き廿六方とくれば五百四坪より
 田の法三にて引取の右とくくまればしるわ

〇二畝四前九歩



法よ六十三方より十八方とくれば是より八十一
 二坪より十坪より十坪より十坪より十坪より
 廿九坪より三つは刻二畝四前九歩と

○一及三畝廿四歩



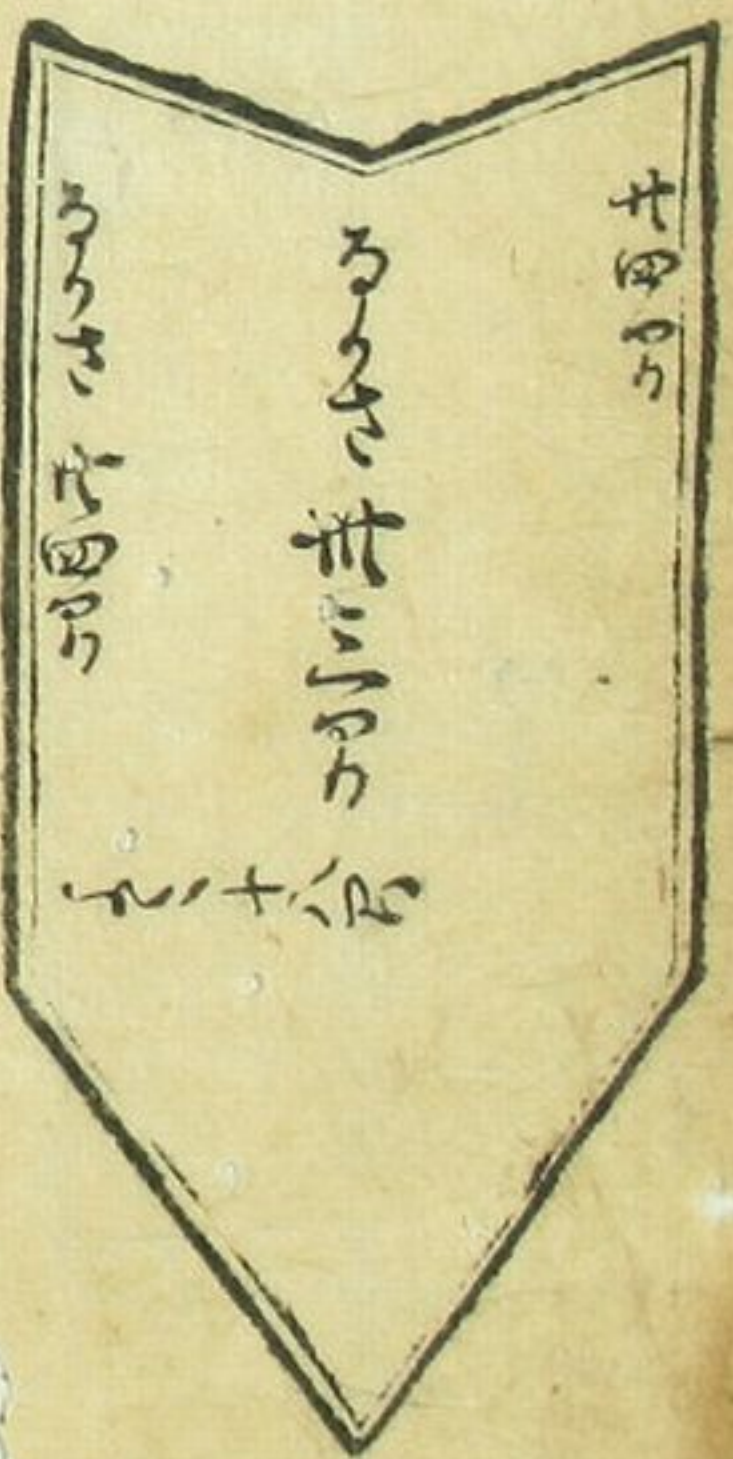
法よ十二万よ十八万加へり時廿万よ成二以よ
 わる時十五万よりなりこれよ六万よ十五万よ
 二のふわりえ十万よ成二のふをき十八万よ
 かくれを百八十九坪よかろ右に或百廿五坪よ
 らよ入るう十坪坪よ敷田の法三て刻えきる

○四畝二十四歩



法よ二万を二つりわりて一万よなるさ
 かくき廿四坪をうられも廿四坪り成なり
 又二万よ十八万をうへりまよ廿万り成
 二つわりて十けんりなるこれをも十二万よ
 かくる時よ百廿坪よるりこれをも右に廿四坪よ
 かくる時り百四拾四坪よ成是を田の法三て
 かくる畝或拾坪よとさるへし

〇一及七畝三歩



法一と世三町よ廿四町らうりてめ餘七町よ此
 此れを二つよとれれ八町より一町りこれよ
 一と十八町かられを五百十三坪よる此れよ
 田の法三てあり時一及七畝三歩とあり毎一
 右掬地の積うは所見ありせうん用なり
 皆心相回かしてと世初公成人よと一への
 多めと一七丈と一めけと

第十八

知り物ぬり事

一二及七畝の時 斗代一及廿五畝の斗代より
 右の言と介ふわととて世の時

〇言て右の事とつよ

法一と二及七畝と右よ置る右斗をこれと
 言て右の事とありへし

一九反三畝廿一歩と一及廿五畝斗代より
 右の言と介ふわととて世の時

〇言て右の事とつよ

法一と右よ九とん三畝廿一歩ととて世の時より下の

七一歩を三にして日ら時よ九方ん三畝七とたり
これよ一石五斗とくくはまるとあり

一 三万五千五百石あり 右に抽ぬ六ツ五分と
しめ時右くするは抽ぬ捨て何れくろ中電さの時

○抽ぬ二万二千三百石とあり
はよ二万五千五百石を右くをき六ツ五分と
わくれと右のもの成とある

一 燃一樽と云と一石の内き五百世れ一
一 三万五千五百石あり け抽ぬ二万五千八百

八拾石とこれいづくはをい
○六ツ五分よたるとあり
法よ抽ぬと右よ番きはてはれ六ツ五分と成

一回三万五千五百石抽ぬ二万二千八百八拾石
あり時ろんらんよあつるをさう時

○三樽五分とあり
はよこの内ともの成れりりもあて一万二千

三百或拾石とこれとさでしれん云らん五分と
一 抽ぬ六ツ五分として抽ぬ二万二千八百八拾石

あり時右くするはれぬといふあり
○三万五千五百石とあり

十二

はよりの取二百二十の百の千石を六の五分て
しほの言とちるへし

一 抽除二万二千の百の拾石を きぬ 口米二千
丈米六千の時の石を抽除の口米丈米をばう

口米丈米千の百の拾石とりの

はし 抽除と右のなきて八米とかくれと口米
丈米とちるへし

一 抽二万二千八百八十石の時口米丈米千丈米は
一とんしてとちるへし

二万四千七百拾石四斗とりの

はし 抽二万二千八百の拾石とみちのよとちて
しほの言とちるへし

二万四千七百拾石四斗とちるへし

一 口米口米丈米は二万四千七百拾石四斗の時
口米口米とちるへし

口米二万二千の百の拾石とりの

はし 二万四千七百拾石四斗とちるへし

一 口米口米丈米は二万四千七百拾石四斗
あつたとき口米丈米とちるへし

口米丈米千の百の拾石とりの

一斗一石二万四千七百拾石四斗ぬしをきいて
しよりふふ石一斗と垂^{さか}を八斗にしてわぬ時
一三五とかなる是にして右をわらうとまじり
千八百廿石四斗とまぬ

一回右米口米史米共一^二万四千七百拾石四斗と
右のうち口米をふわくうぬと

○口米四百拾石五斗としめ

法一石一斗と垂^{さか}これと式率でわら
五四とぬこれと右の二万四千七百拾石四斗と
まぬとまぬとまぬとまぬと

一右米口米史米共一^二万四千七百拾石四斗ぬしを
史米りりわをふわくうぬと

○史米千二百七拾二石四斗としめ

法一右をまぬと垂^{さか}これと式率でわら
一八とかなるこれにして右のをまぬとまぬと
式石八斗とまぬ

一史米千二百七拾二石八斗あり時一右米をふ
わくうぬとまぬ

○右米二万二千二百拾石としめ

法一右をまぬと垂^{さか}これと式率でわら

命本よりしれいの中米とちるを

十石兼四百の積七石おちりし付け中米とちるふれ
ろくせうとちる

○中米二万二千四百の積石とちる

法より四ろめ千七石おちりて二米よりしれい
中米としちる

一 粟米とちり千八百廿石四斗五合より中米の
何れしれい同計より

○中米二万二千八百の千石とちる
はよ千八百廿石四斗と八米としれい

一 粟米とちり千の百廿石四斗五合より中米と
ちるしれい同計より

○中米千二百七拾二石半とちる

はよ右のち米とをきてしれい八米にしてしれい
七斗とちるこれより右の千の百廿石四斗と
われん中米千二百七拾二石八斗とちる

一年欠り右の中米七斗よりしれい右のちる
中米二米よりしれいで中米ちるふれとちる

○納八石五斗とちる

はよ八石五斗七斗と一石五斗としれい

九十九

金銀さくのうりうい付積のし

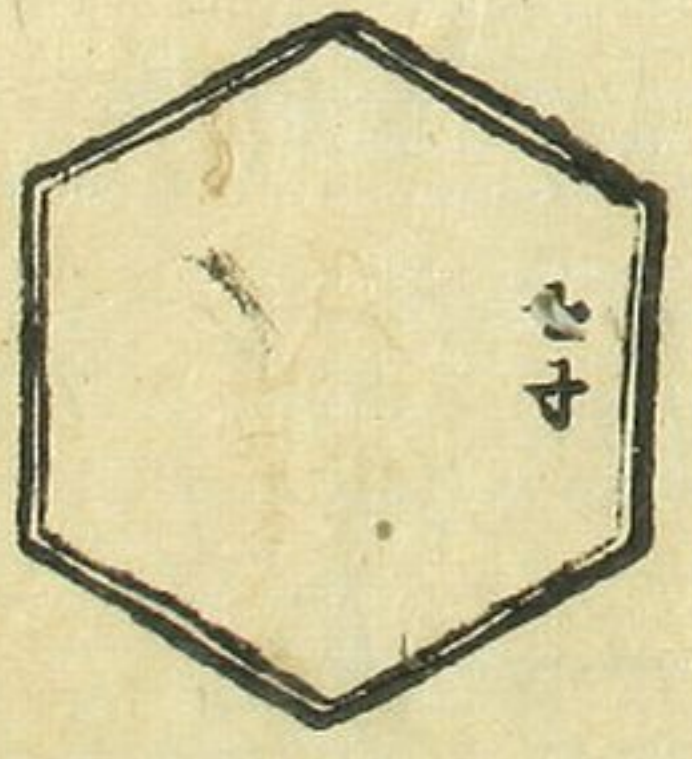
一 四寸為千五百枚と三寸五分と一てうおれへ
うりかたへ

○三寸為二千六百六十六枚六分六厘と
は、四寸と五寸とをきくれば十六坪一なるは
あれ、四寸為千五百まいかれば二万四千坪は
うりなりこれと五寸へは、五の又じりり
三寸と五寸とをきくれば九坪は成るは
右、二万四千坪を刻し二千六百六十六枚と
ありかしとあり

十二段ひょうのさかきんを三尺ありあき
 こたぐさきり一四寸此金蔵うぶやく入る
 ○百八拾七まいはしり
 法よ五尺よ六尺をくぬし守の坪三千坪は
 これを四寸為の坪り寸十六めわをい
 百八十七枚すこまぬとそめんと一わりも
 ニわりも入るりこれもさよふと一わり
 めはゆしきるる

六角ろり物此角のよもて七寸つある
 あれよ三寸金蔵とく時きうんぬり入る中
 とりとるり

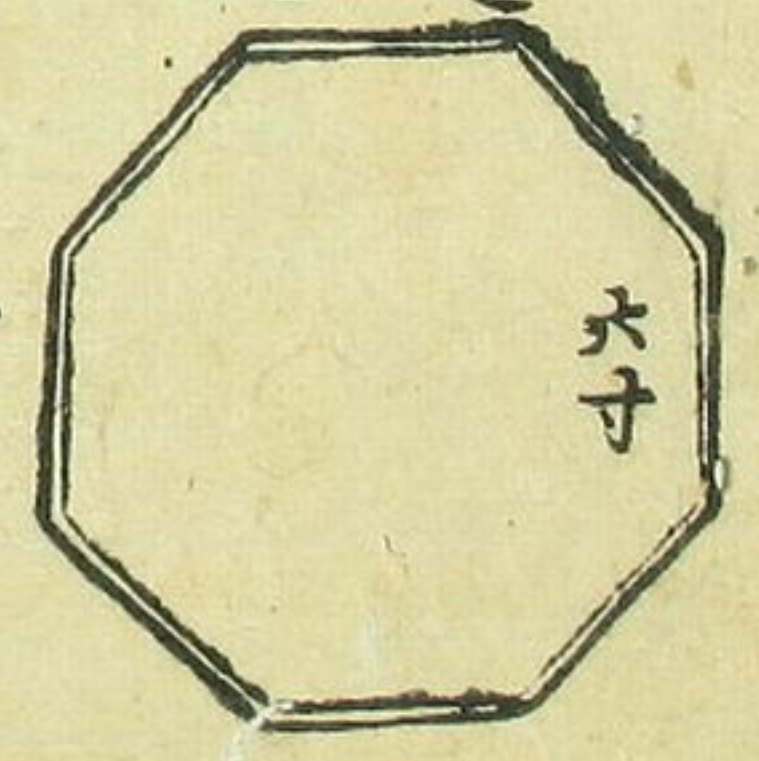
○フ寸坪百廿七坪三分あり
 ○三寸為十四枚一分四り入



けよ七寸と右右よをきうく四九とぬり
 六角の法二五九八く小六百廿七坪三分二きり
 二寸と三寸為此九坪りてはれり三寸の法
 十で敷一分四りとちる

一八角のをもて六寸のついでに四寸のふたつ三寸の金銀
のふたつ入ると同時に

〇一寸坪百七拾三坪の分りり
〇三寸もく十九坪の分りり入



は六寸と左右のをもて六寸のついでに四寸のふたつ三寸の金銀
のふたつ入ると同時に
二をくくれば七二と成是を八角の法四一四二と
まわらば七十三坪八分三厘と成る也又これと
九にむらり時十九ぬえか一りともるる
右より二用をもてけよとせ入ると見合入

塵劫記卷之第四目錄

- 廿一 川ふたつに事
- 廿二 菊あふらんりの事
- 廿三 木のろりきとさふらむにてはむらり
- 廿四 町はむらり事
- 廿五 開平法の事
- 廿六 開立法に事





河井翁の書

一は堤の呼救をふりてくるなり

百廿五呼めるなり

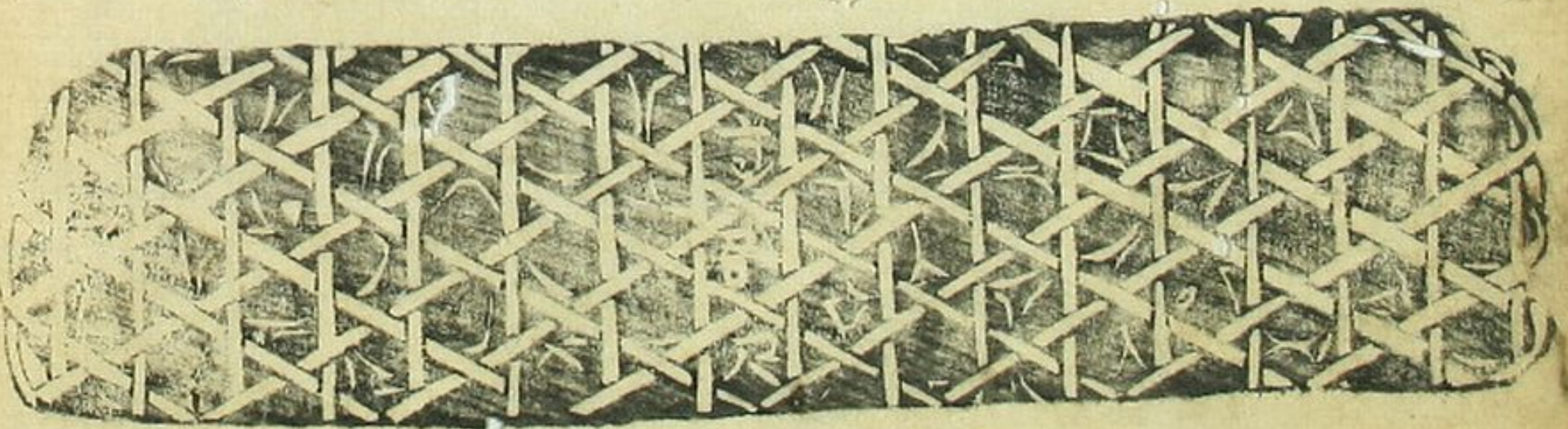
これは下つきの文である
くまりの時合へおまぬ
あつとせいでおまぬ
あつとせいでおまぬ
あつとせいでおまぬ
あつとせいでおまぬ



一 一やうに乃はまりのき

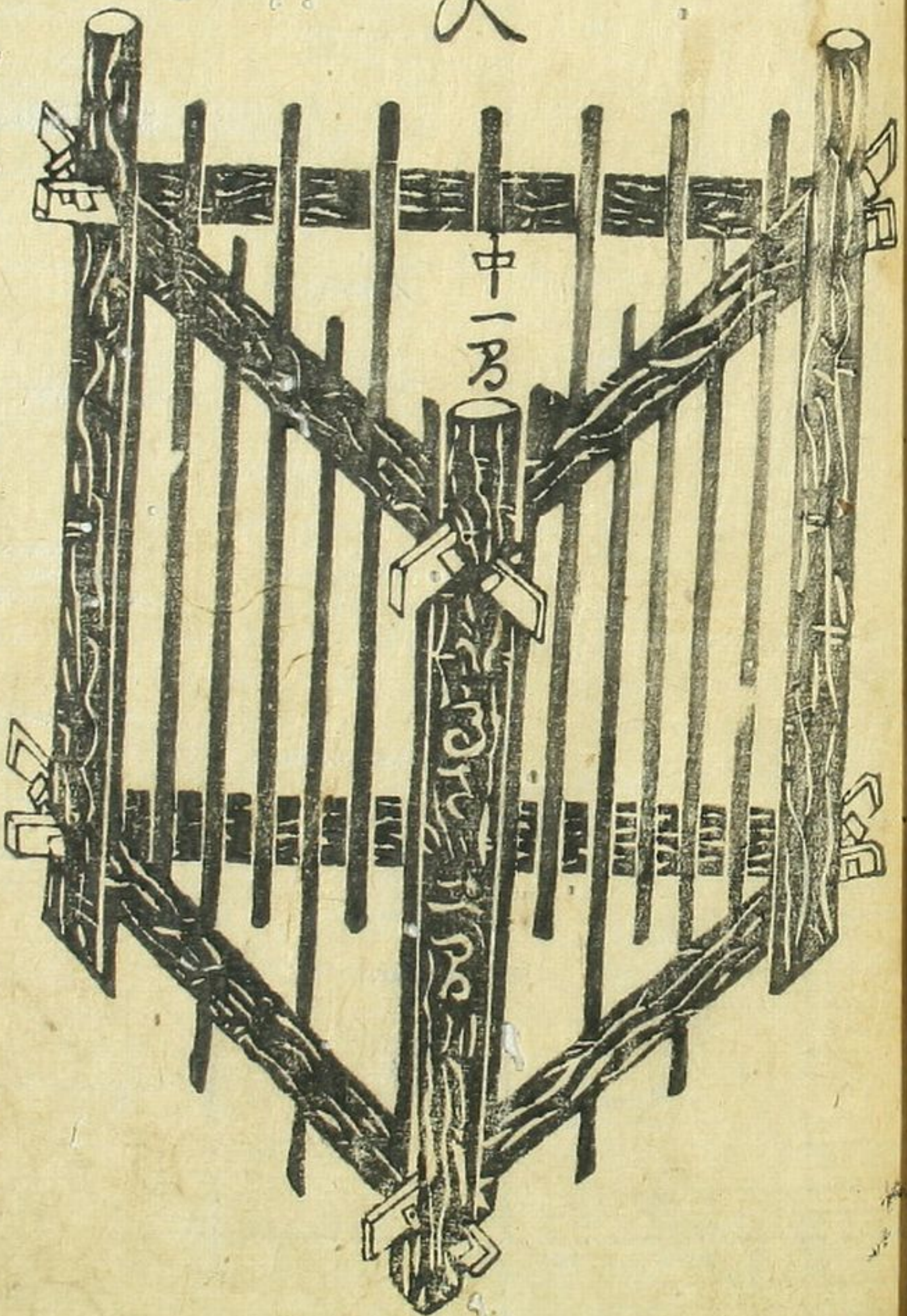
四呼二合七支入

法ふめ入と丸右の^法うくぬ
二めとぬ^法七ぬと
ぬ^法七ぬとぬ^法七ぬと
ぬ^法七ぬとぬ^法七ぬと
ぬ^法七ぬとぬ^法七ぬと
ぬ^法七ぬとぬ^法七ぬと
ぬ^法七ぬとぬ^法七ぬと



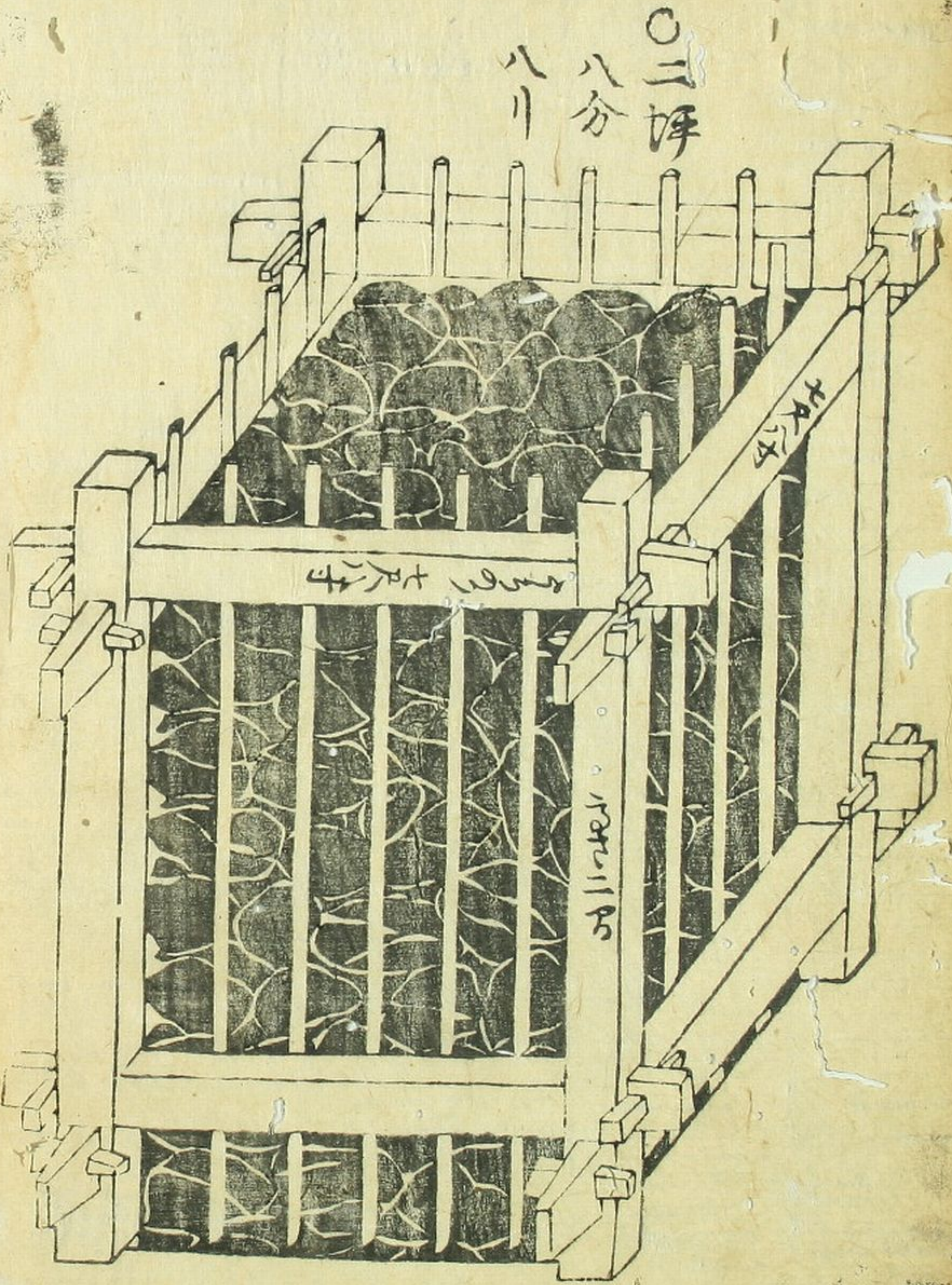
二呼入

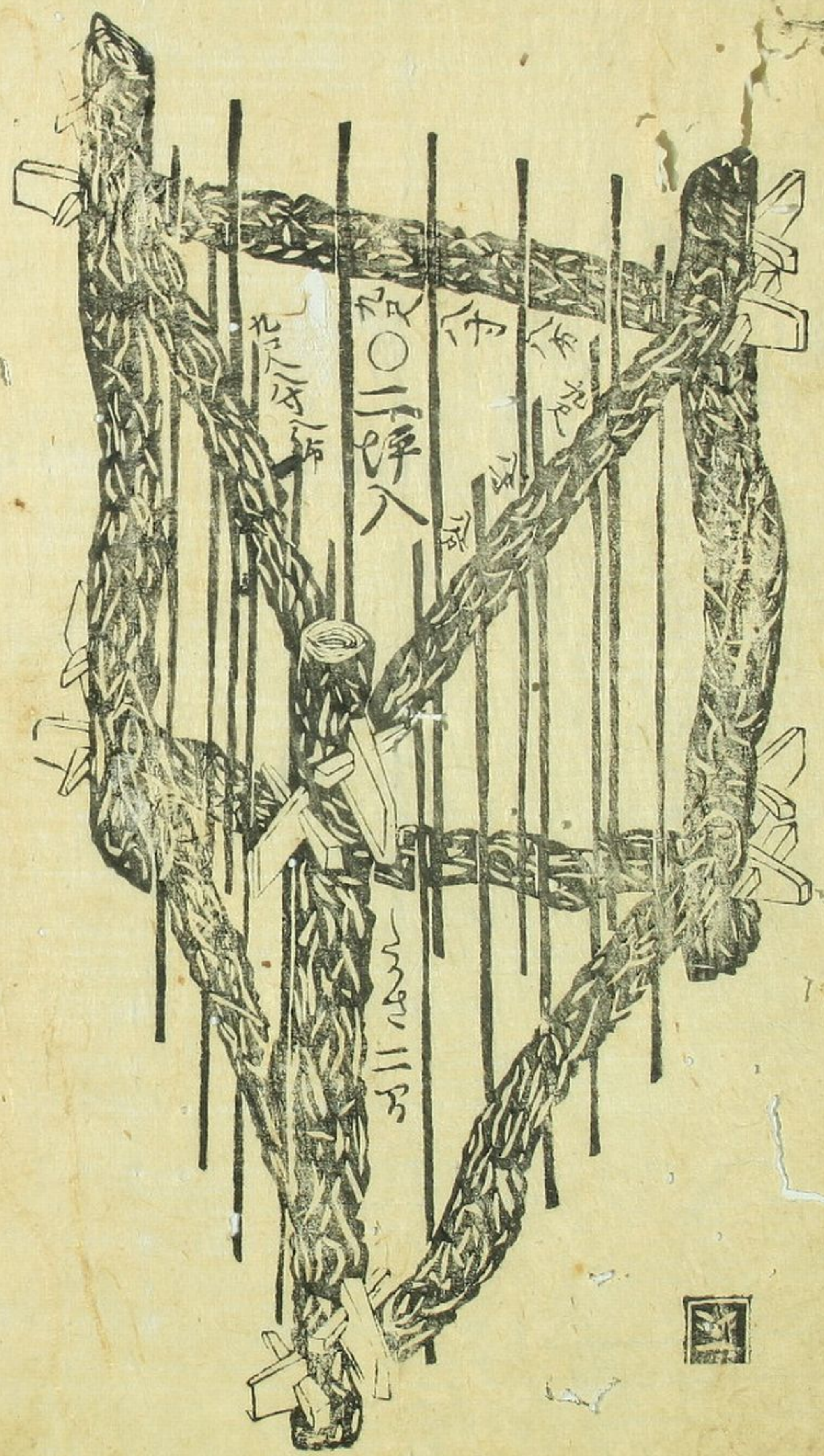
中一乃



法ふめ入と丸右の^法うくぬ
二めとぬ^法七ぬと
ぬ^法七ぬとぬ^法七ぬと
ぬ^法七ぬとぬ^法七ぬと
ぬ^法七ぬとぬ^法七ぬと
ぬ^法七ぬとぬ^法七ぬと
ぬ^法七ぬとぬ^法七ぬと

法...
一坪...
二坪...
又...
...
...
...





此の丸尺八寸五分を左右の^{とぎ}垂から^{とぎ}布とをり
 九七六一四四とする^{とぎ}角法四三三から^{とぎ}凡
 四二二六七下三五二と^{とぎ}成し^{とぎ}り^{とぎ}二^{とぎ}坪^{とぎ}を
 二^{とぎ}坪^{とぎ}八^{とぎ}四^{とぎ}五^{とぎ}三^{とぎ}四^{とぎ}下^{とぎ}七^{とぎ}下^{とぎ}四^{とぎ}と^{とぎ}成し^{とぎ}平^{とぎ}坪^{とぎ}法
 四二二五に^{とぎ}せ^{とぎ}わ^{とぎ}れ^{とぎ}二^{とぎ}坪^{とぎ}と^{とぎ}成し^{とぎ}る^{とぎ}八^{とぎ}

一

川

二

才世

あつてきんわりせし

一 浅い地銀花へいぬともあるひ六百七拾五別あり
主人三つらとてうけとるときなり

一 かしらの人々 七百拾人あり

一 かしらぬ人々 千五百人あり

一 かしらぬ人々 七百廿人あり

三 かし合三千人といかよふ敷をふ程つたて同

○ 別口百四拾九男とん 七百八拾人の分

○ 別口百八拾七男とん 千五百人の分なり

○ 別口百卅八男 七百拾拾人の分なり

此より一尺のひとうつ七百八十人となききしれよ
五百七十五万とつられも四四八五とならば
人の言三千人てとれぬ百四拾九万と志のこ
ゆり二匹のまらやうも時同かかの

○つれともつめよわりてうらりをは

初めよりわけてのちふわりつし

一七百八十人と志て百四十九万とあつり時り

一人おのかまらふれつくろむとつ時よ

○一人およ一尺二寸四分り八毛ぬとつよ

はよ百四十九万と志れよら尺五寸をわくれと

九七二七五と成し七百里程人らてわれん

一尺二寸五分り八毛ぬとつり

一ろりのろき三百三十三万りりよ三十五万と

あつて二万五拾坪敷るふれとあつと同時

○一万余百の拾坪敷とつよ

はよ三百八十三万よ十五万とつる五十七百

四拾五坪小なる是り一少と二万とつる

一万余りろの拾坪敷とつる

一ろりれも四百万ひろき五万と少と二万二尺

は坪ろの何れとさつとつる

〇三平の百十五坪三合の夕まといふ
 法よ二尺二尺とあるを垂てけ二尺りりりりよ六尺
 五寸かくれ一丈五尺と成る事ふじろき五尺を
 かくれ七五とする所是よ七四百けんとかく成り
 三と成るれを六尺五寸にして日る時よ三平の百
 十五坪三合の夕まといふ。〇又法よいふ
 二尺二尺とある時よ二尺たりりを六尺五寸して
 わり成る二尺三下七六九と成るれり一五尺を
 かけて又たりる事四けんをかく成り時四千三
 十の坪三合八丈といふなり

一 かりのともさうろちよじろき五尺三尺よよ
 二尺二尺ありの時よけ坪うふりくさくの時
 〇五十四拾一坪の合ろまといふ
 法よ二尺二尺とあるをかく二尺よ六尺五寸を
 かくれ一丈五尺とする所。又五尺三尺よも五尺
 りりりよ六五をかくれ三丈五尺五寸と成るを
 一丈め尺よかくれ五三二五と成るれよ七
 四百五をかく成り時二二三と成るれを四二二五
 にしてわりる五十四十一坪の合ろまといふなり
 又二二三と六めりて二といひわりても同様なり

右りのかりき四百咫め尺小ひろき五尺二天
うろき二尺二尺付け坪うろ何れとう

○五千の餘一坪一合をまきとりし

法は四百尺尺とてうろたうりは六五とくは
四百尺格丈の尺と成是よりひろきも右とまく
さくこれをもよく付て又うろきも一丈五尺
うろて右よりうろ尺一三八七一六二五となる
是より右より別まき又右より坪の法二七四六二五
とまきこれも右をある付り五尺め坪
一合をまきとりし

一五尺を時りり口のひろき五尺より
二尺をしり右より五尺坪れろきと同時

○かゝる四百尺も知とりし

法は五尺を二尺をよくれ十二坪守いたり
これにて右より五尺坪をはれるもいます
一又五尺坪を時をまうろひろき五尺をしり
みもこの五尺坪のうろきとりし

○かゝる二尺をとりし

法は五尺を四百尺けんは五尺とくは二尺坪を成
これめて五尺坪とりし時二尺をとりし

一畝の長と田百はしひろいせり二尺
ありありとうめいしひろいせり二尺
と四百の後段よひろき三尺より二尺は
ありては五尺なふりしうまうたの
〇一尺二尺八寸五分うまうたし

はよと三尺の千尺ひろき三尺とくれ
千四百拾坪とぬいれよ二尺とくれ
二千の百拾坪とぬいれよ別を
又しりてと三尺の千尺ひろき五尺と
くれ二千坪とぬいてる二尺八百八十坪と

われ一尺四寸とぬいれよ四寸とぬいれ
くれぬ時よ六尺五寸とぬいれ一尺二尺八寸
五分とぬいれ

一又右とありとうめいしひろいせり二尺
ゆくと三尺とぬいれよ四寸とぬいれよ
〇と三尺の百拾坪二尺五分とぬいれよ
はよひろき五尺よ二尺とぬいれよ十二坪と
くれよひろき二尺八百八十坪とぬいれよ
四とぬいれ四よ六尺五寸とぬいれよ三拾
五尺六寸とぬいれよ

すいの言一尺一尺五寸よとらん七拾二尺ある
アハモこの坪うらふりこむたむ向時

○の指八坪六分一リゆきと

法よ一尺一尺五寸と有る並は一尺をうり
六五をうりうり時尺とぬこれをも七十二
うり時よ五七六とるうりこれを六尺五寸
わりのときさうり八十八坪六分一リゆき
と

一や福坪六坪の時こけらあきうりまき板
ゆりて入りゆきうり時一のまきあり

中よて一寸五分むひて三寸あり三と
ありて一寸五分のありうりまき三寸あり
あきうりあて有る三十六坪うりまき板の
入積かふりてむ向時よ

○三万三千の百入と

法よ四二二五よ卅六坪とるれ六一五二一と成
このを有るへちふなき又ひり板の
三寸とや福北あきあり一寸めうりうり
四五とあきをいして有る一五二一をうり
三万三千の百入と

一 とうらふれのひ一尺 符五分ありわよ竹付垂

○五分 とうらふれのひ一リ二毛四糸九糸

○一寸 とうらふれのひ四リ九毛八糸七糸

○二寸五分 とうらふれのひ一合一リ一毛八糸

○二寸 とうらふれのひ一合九リ一毛

○三寸五分 とうらふれのひ一合下七毛七糸

○三寸 とうらふれのひ一合四リ下三糸

○四寸五分 とうらふれのひ一合九リ七毛三糸

○四寸 とうらふれのひ一合七リ下三糸

○四寸五分 とうらふれのひ一合六リ七毛八糸

○五寸 とうらふれのひ一合一リ三糸

○五寸五分 とうらふれのひ一合四合一リ二毛七糸

○六寸 とうらふれのひ一合六合六リ一毛九糸

○六寸五分 とうらふれのひ一合九合二リ六毛二糸

○七寸 とうらふれのひ一合六毛五糸

○七寸五分 とうらふれのひ一合五糸

○八寸 とうらふれのひ一合六毛二糸

○八寸五分 とうらふれのひ一合二リ四毛四糸

○九寸 とうらふれのひ一合三毛六糸

○九寸五分 とうらふれのひ一合七毛一糸

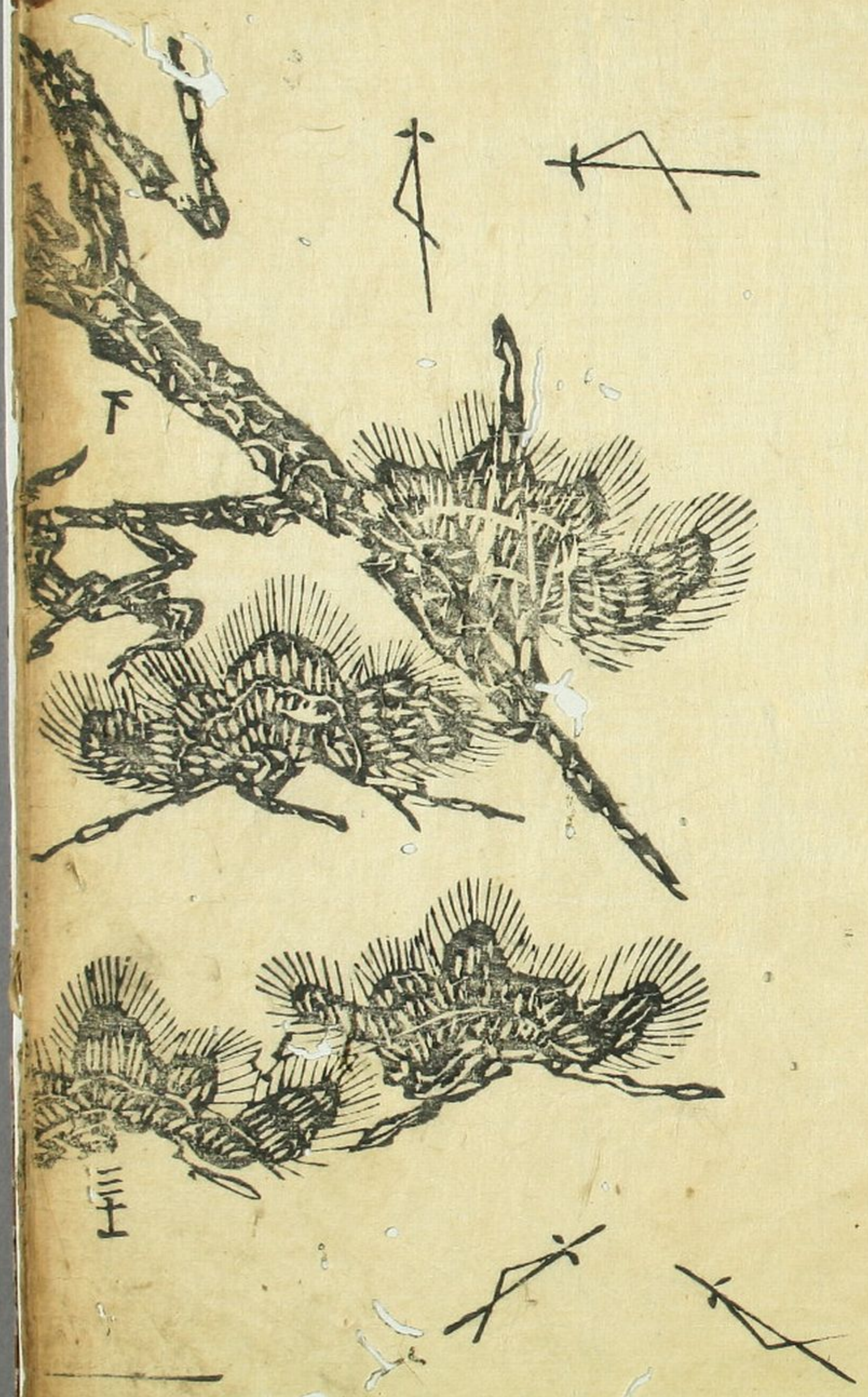
〇二尺 とうとうのひ罟すつ罟り二毛一糸
右の糸高実法とわり付違ふ

一ありひむひのさーらよかのき此はたまのつ
三つま五すつらふらふそのひせよふおれ
あつらひやとつとまこり

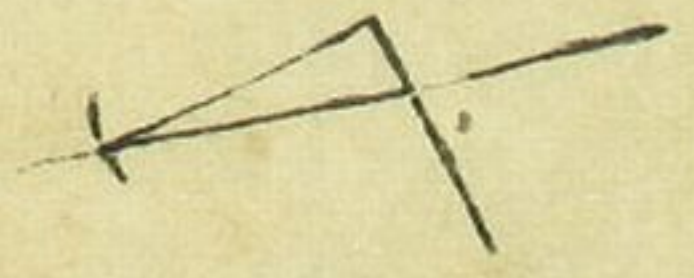
〇二尺二尺三寸一分わりハ毛五糸ハ罟と云
はよ二尺よ六尺五寸うらぬ一丈の尺五寸とぬ
二毛を五すつらふらふ此法一すつ罟り三糸ハ
かくれも二尺三寸一分五リハ毛五糸とまの
これと三つらよくふらふ

糸井三

おのうらやとつらふらふ此法一すつ罟り



法よとてなるを四角しとありて
 又よとてなるをありて下れよ
 小石をとりてしりきりして
 かしこくしりきりしてありて
 なるしりきりしてありて
 まてけんさうとてうらてみる
 七つとてなるを三つとて
 ありてありてありてありて



力千四

町はらけ

町

のり



町はらけ

町はらけ
町はらけ
町はらけ
町はらけ



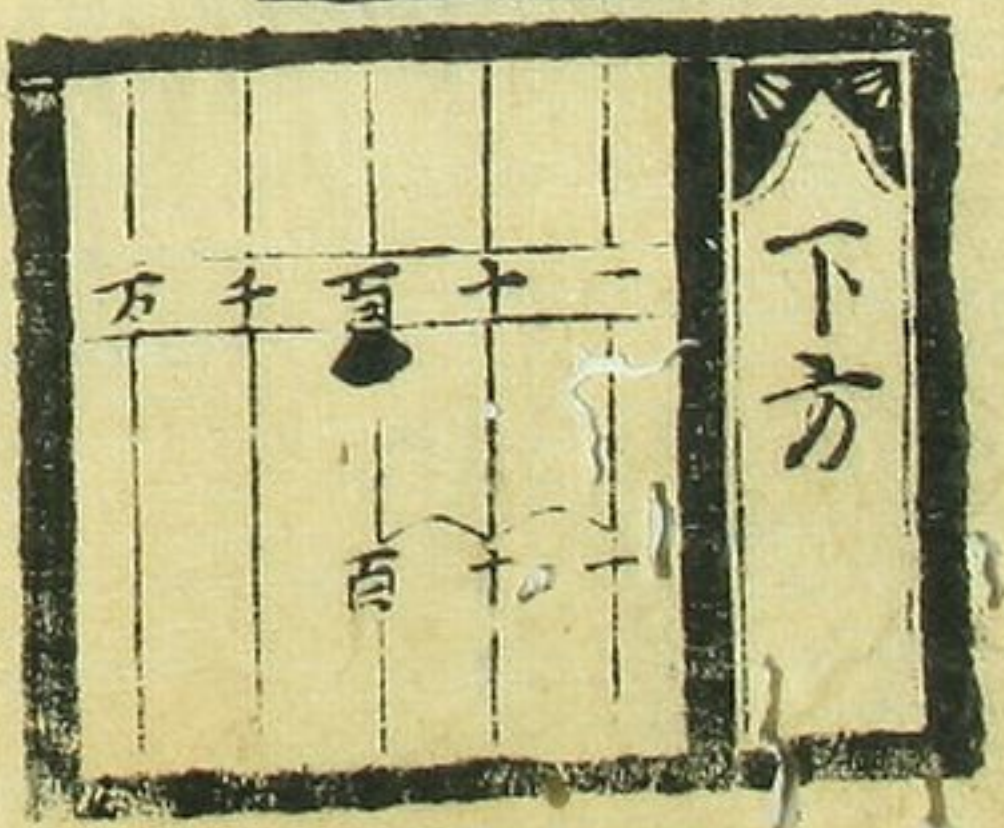
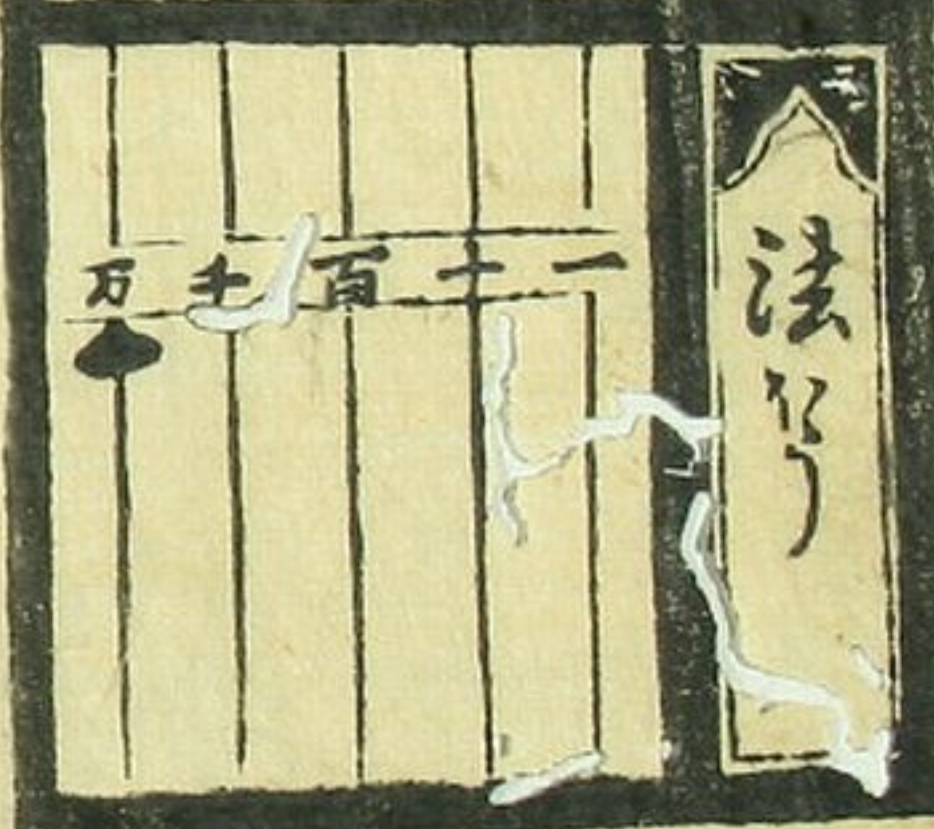
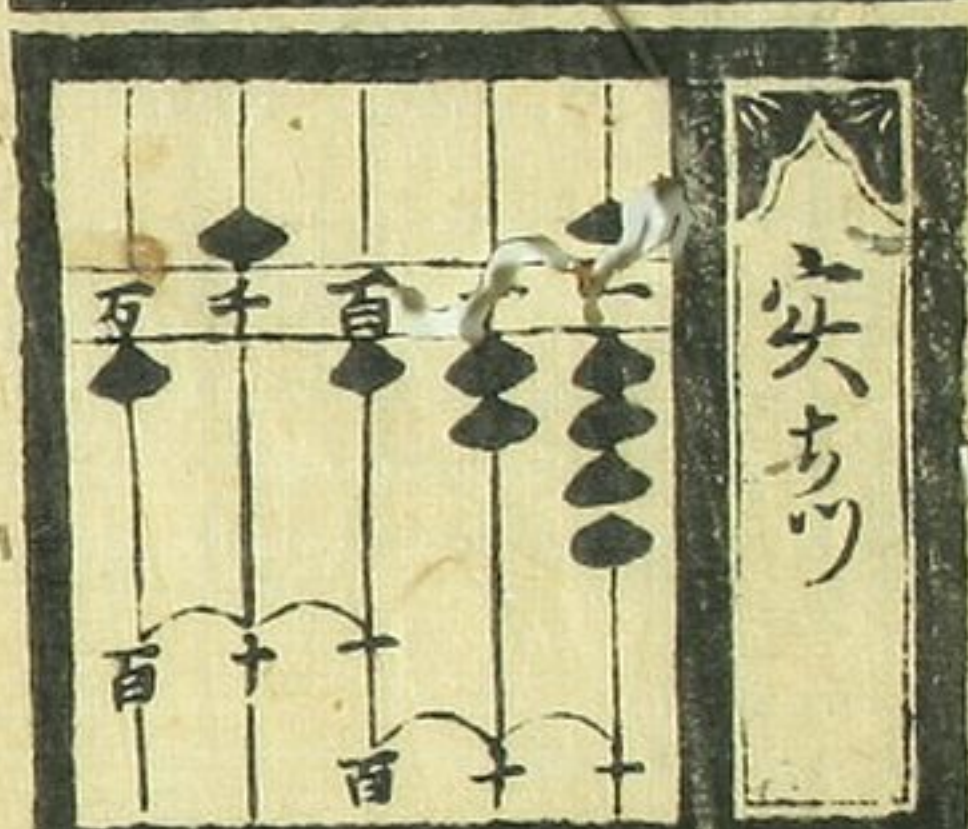
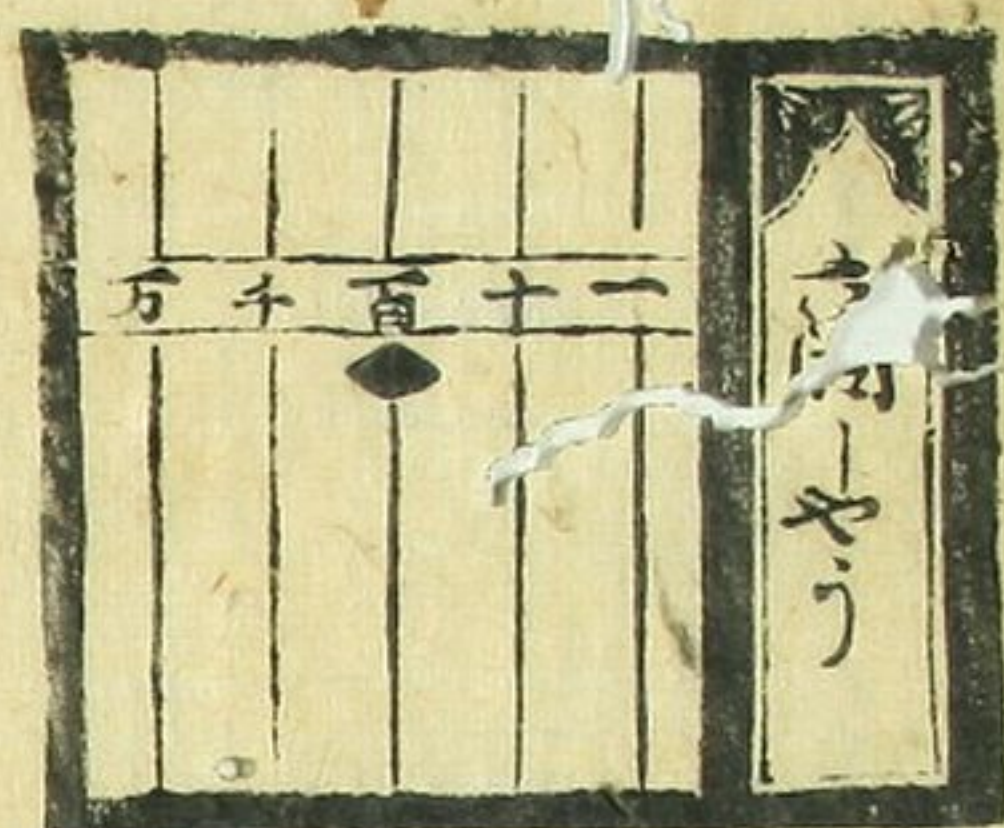
町巻下

廿二寸ありて一町二町三町四町五町六町七町八町九町十町十一町十二町十三町十四町十五町十六町十七町十八町十九町二十町二十一町二十二町二十三町二十四町二十五町二十六町二十七町二十八町二十九町三十町三十一町三十二町三十三町三十四町三十五町三十六町三十七町三十八町三十九町四十町四十一町四十二町四十三町四十四町四十五町四十六町四十七町四十八町四十九町五十町五十一町五十二町五十三町五十四町五十五町五十六町五十七町五十八町五十九町六十町六十一町六十二町六十三町六十四町六十五町六十六町六十七町六十八町六十九町七十町七十一町七十二町七十三町七十四町七十五町七十六町七十七町七十八町七十九町八十町八十一町八十二町八十三町八十四町八十五町八十六町八十七町八十八町八十九町九十町九十一町九十二町九十三町九十四町九十五町九十六町九十七町九十八町九十九町百町

開平法

坪數 壹方五千百廿九坪ありて四方より
 ありて一方はさるよりありて四方あり
 百廿三乃四方と云

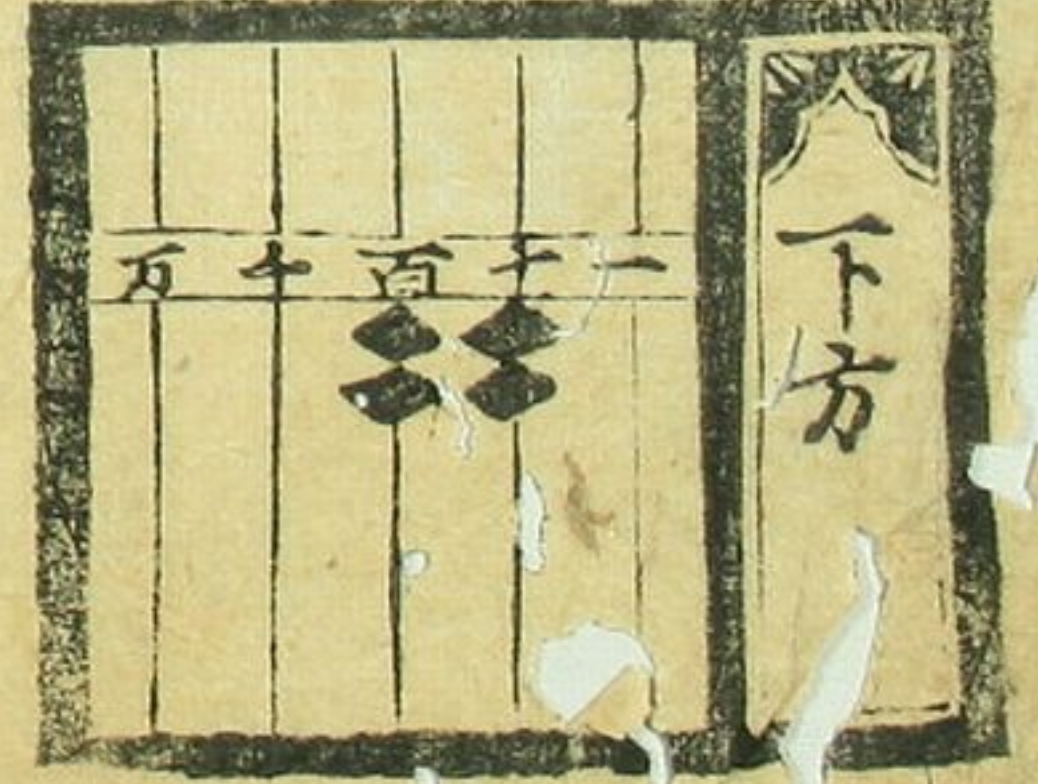
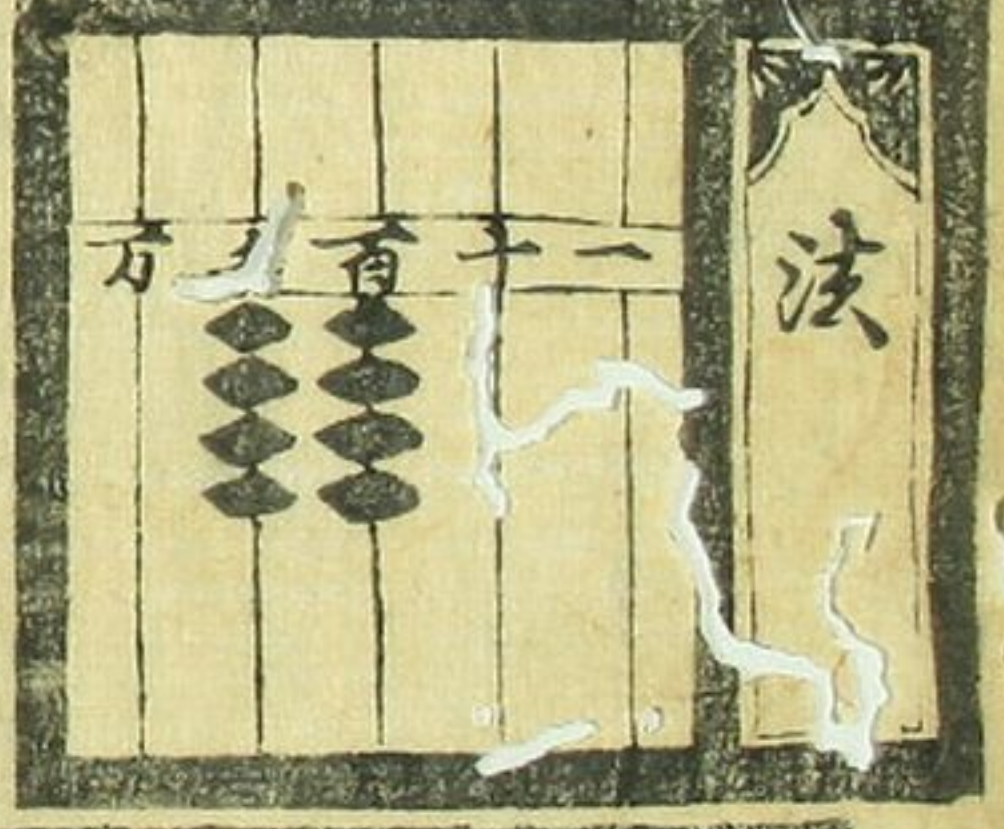
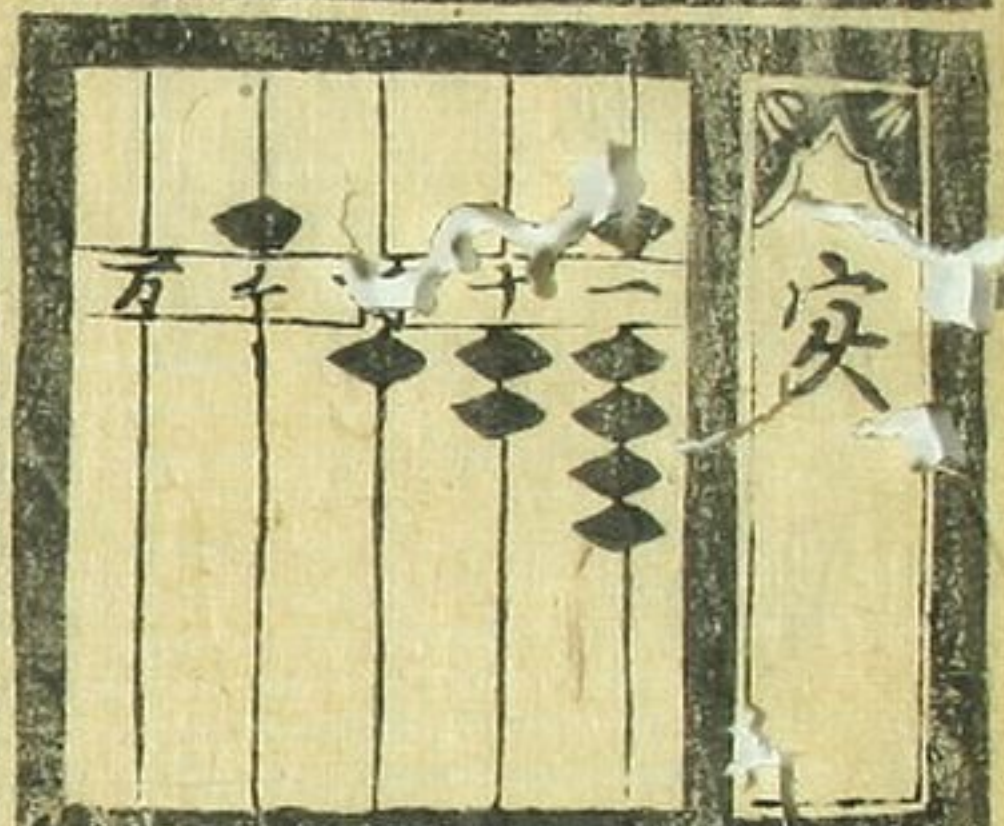
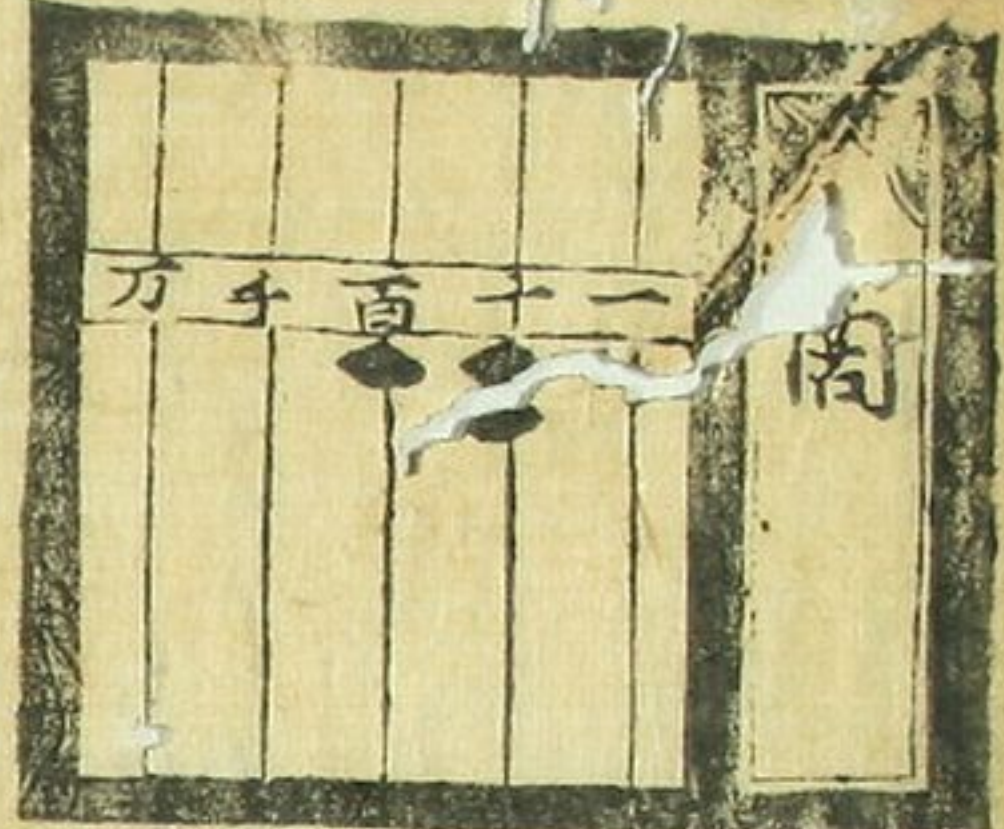
百廿三乃	壹方五千	坪數
百廿九坪		
百廿三乃		



例
一
万
坪
不

はよのふ。實は一万五千百廿九坪とをまゝにきり
 實をいづらういとをる二十百二十百とあるこの
 一といふふ入てありある時まゝいづらうと
 りの百のいづらうとを。實は一万五千百廿九坪と
 びとりの乃下方にて二十百とふ入てありて
 高とをいづらうとを。實は一万五千百廿九坪と
 して。實の百と下方の百とをいづらうとを。實は
 一万五千百廿九坪とを。實は一万五千百廿九坪と

のこりて 五千百廿九坪あり



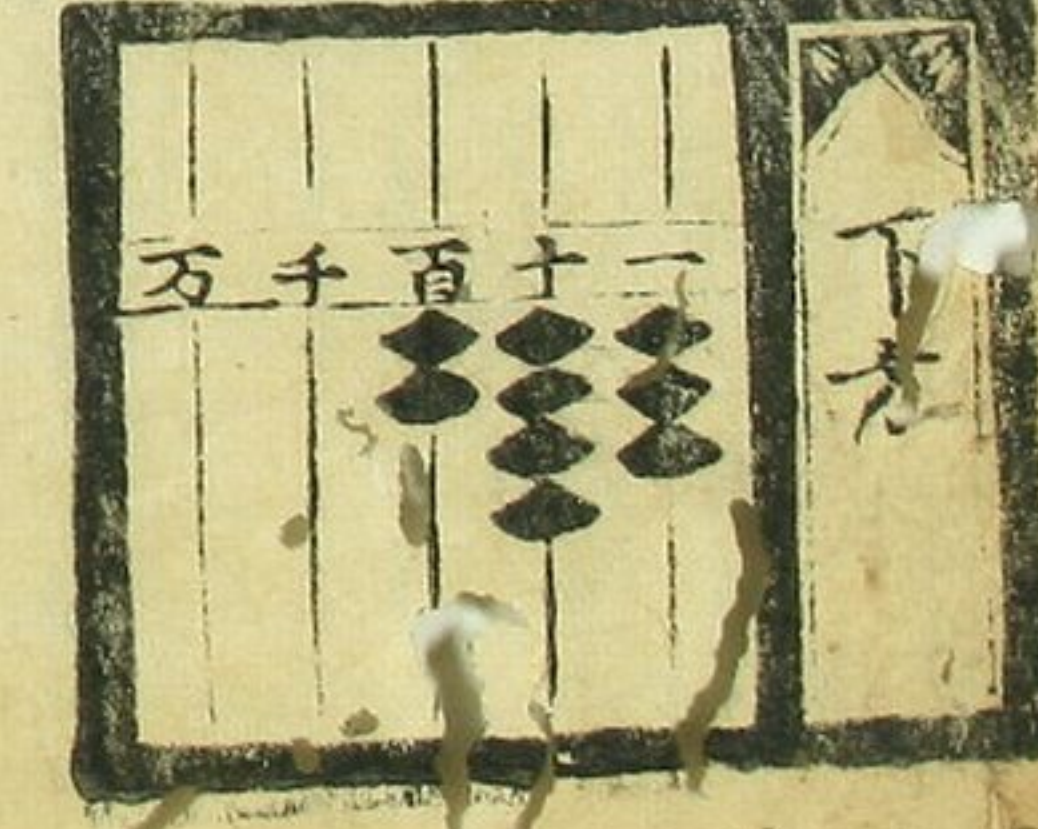
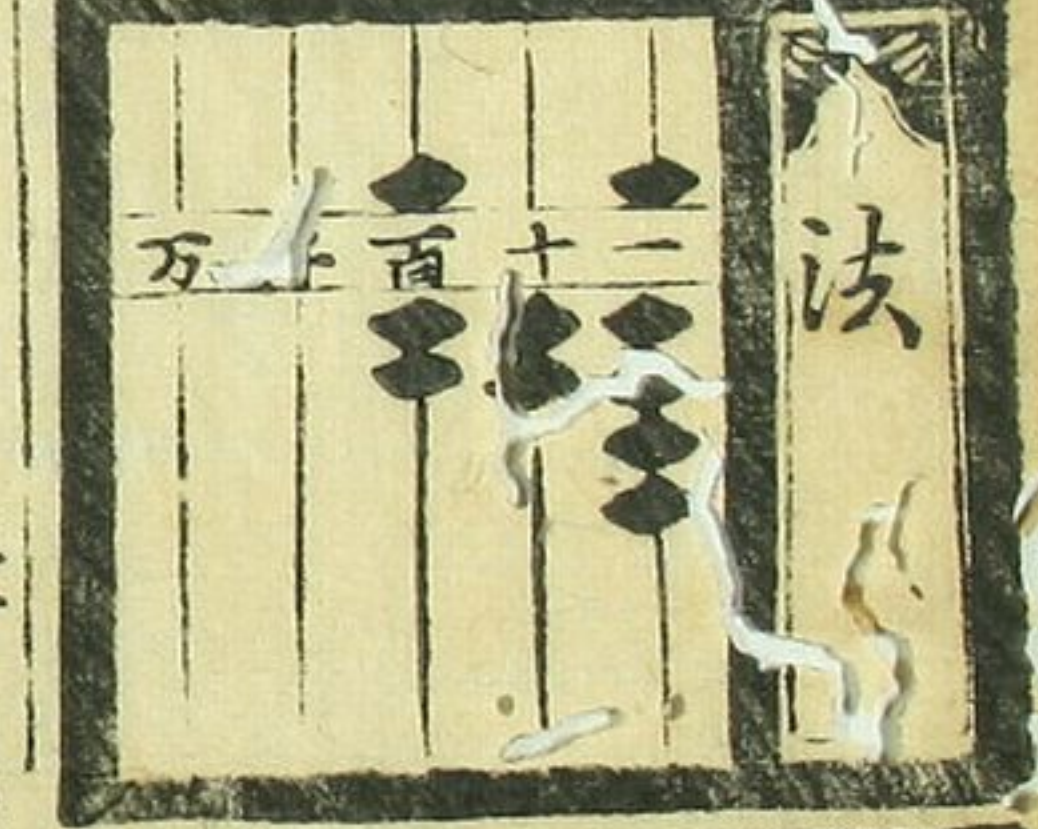
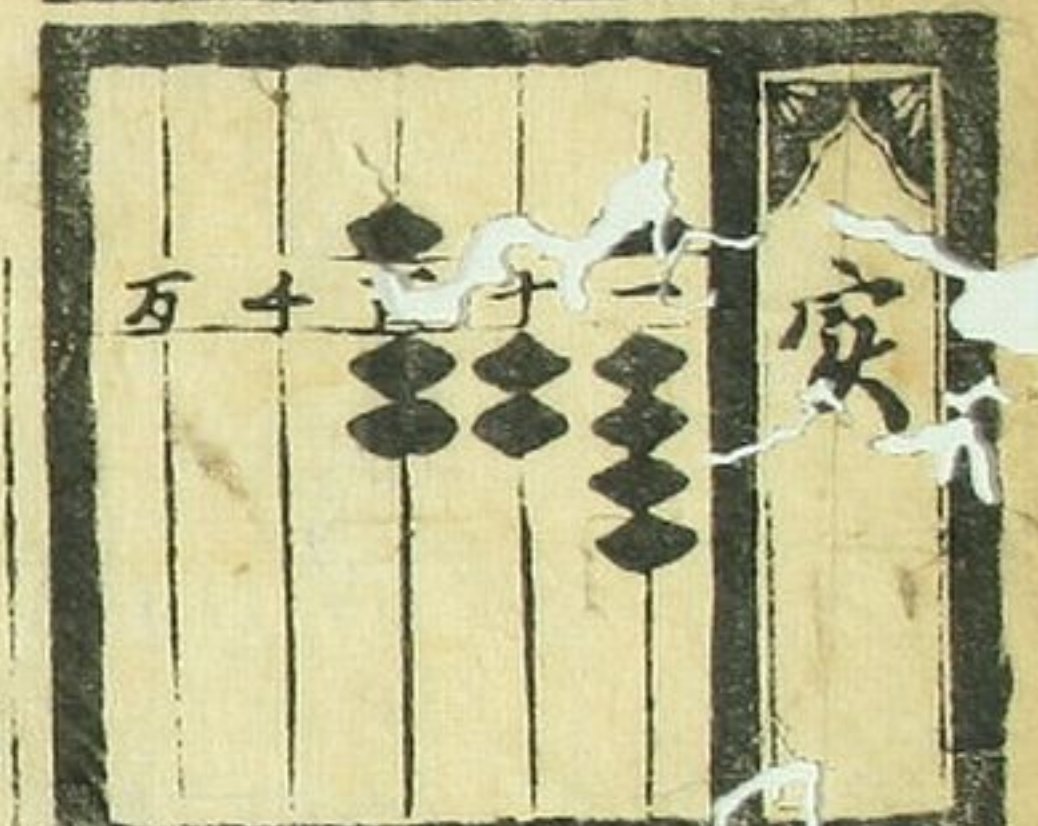
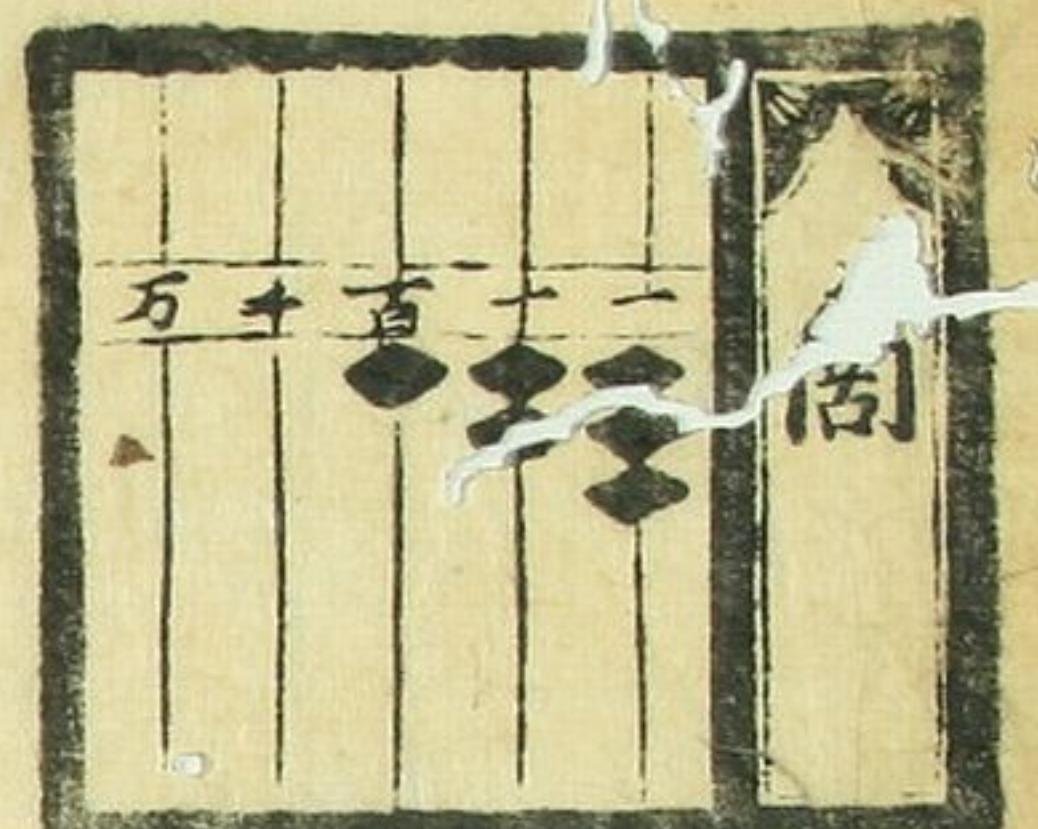
開卷下

三十一

十	四		
二千坪	一万坪	百	
	廿	廿	廿
四百坪			

けよりふ。商の百のほこりよ。二十とをまんとをい
 下方とい。くくしいまけて。百と一をい。二百と
 一。下は二十とをく。二十の商よ。い。ま
 ち。い。て。ま。い。さ。て。け。け。下。方。の。ま。百。り
 商乃廿とよ。ふ。二。二。乃。四。千。と。け。り。と。こ。ろ。ま。ま
 下方のすよ。商の廿とよ。ふ。二。二。の。四。百。と。け。り
 と。ま。い。ご。り。を。実。は。り。て。り。り。り

法。七。百。九。坪。あり



十	百	千	万
二	一	一	一
千	百	十	一
二	一	一	一
百	十	一	一
二	一	一	一
十	一	一	一
二	一	一	一
一	一	一	一

法より実より倍の法は三とをきいて下方と
 一とをきいて下方と一倍四とをきいて下方と
 三とをきいて下方と三とをきいて下方と
 さて又法より下方の二百より商の二とよか
 二三の百と法より五又下方の四十より商の三
 よよ三四の百と法より五又下方の三より商の
 三とよよ三三の九と法より五を七百廿九と
 これを實とて引を〜小時百廿之万四かく
 ろりゆし志すべし
 一積三塊五京二兆一億二万五千六百二十五坪を

開平法よきとて是がふ即ちそし開行り

○一万八千七百六拾五百とす

一積九宗五兆一億四万令五百十六坪あり時

これを開平法よりしてふふわくをことう

○九千七百四十四万といふ

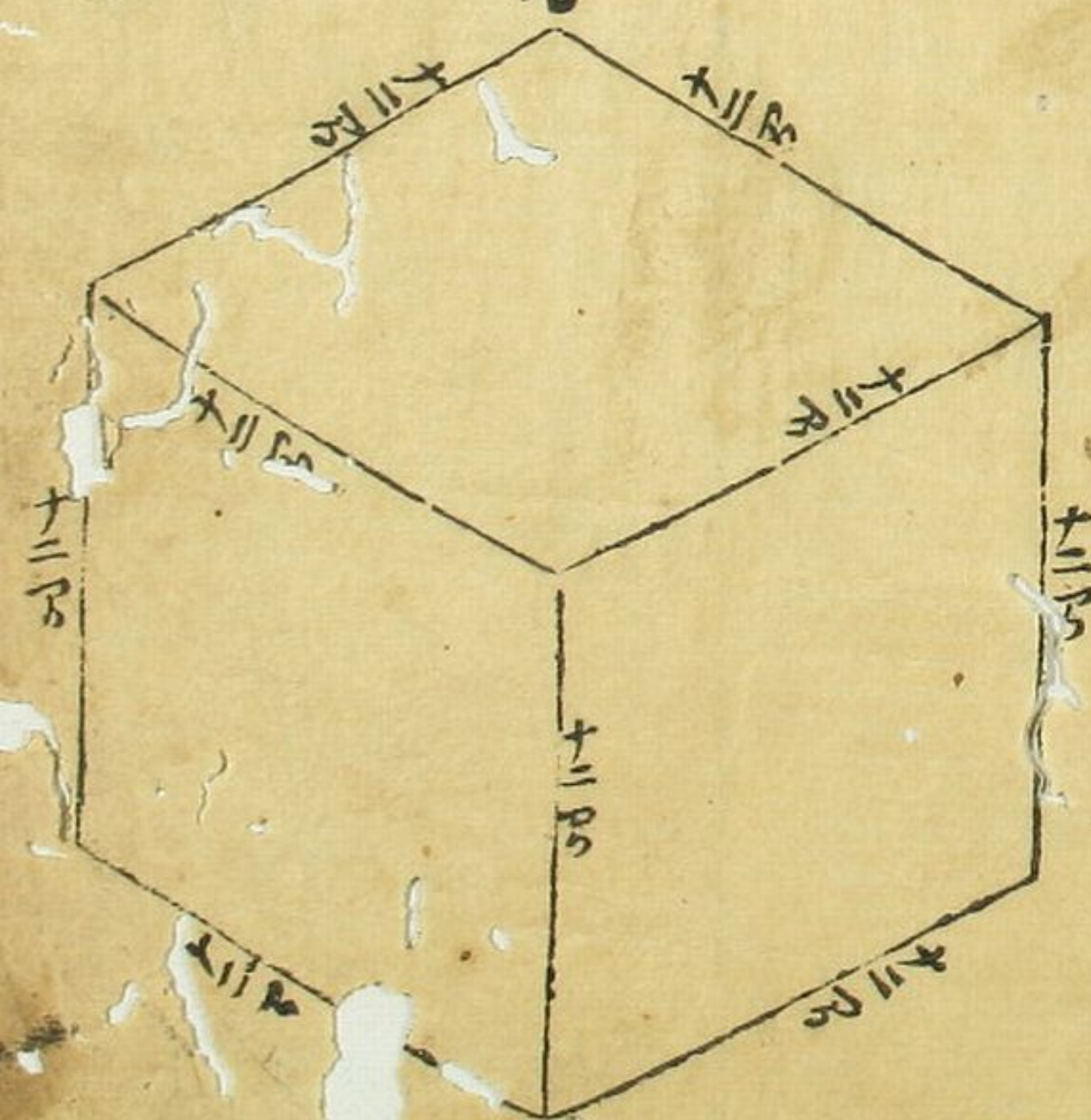
右よりいへい法が併るり○又一たんとて

されんもあはれにに待りし

開平法

呼教子七百廿八呼わりこれとてふこと
たうさむあまひをけりてあまひを
さう時よ

十二万四方

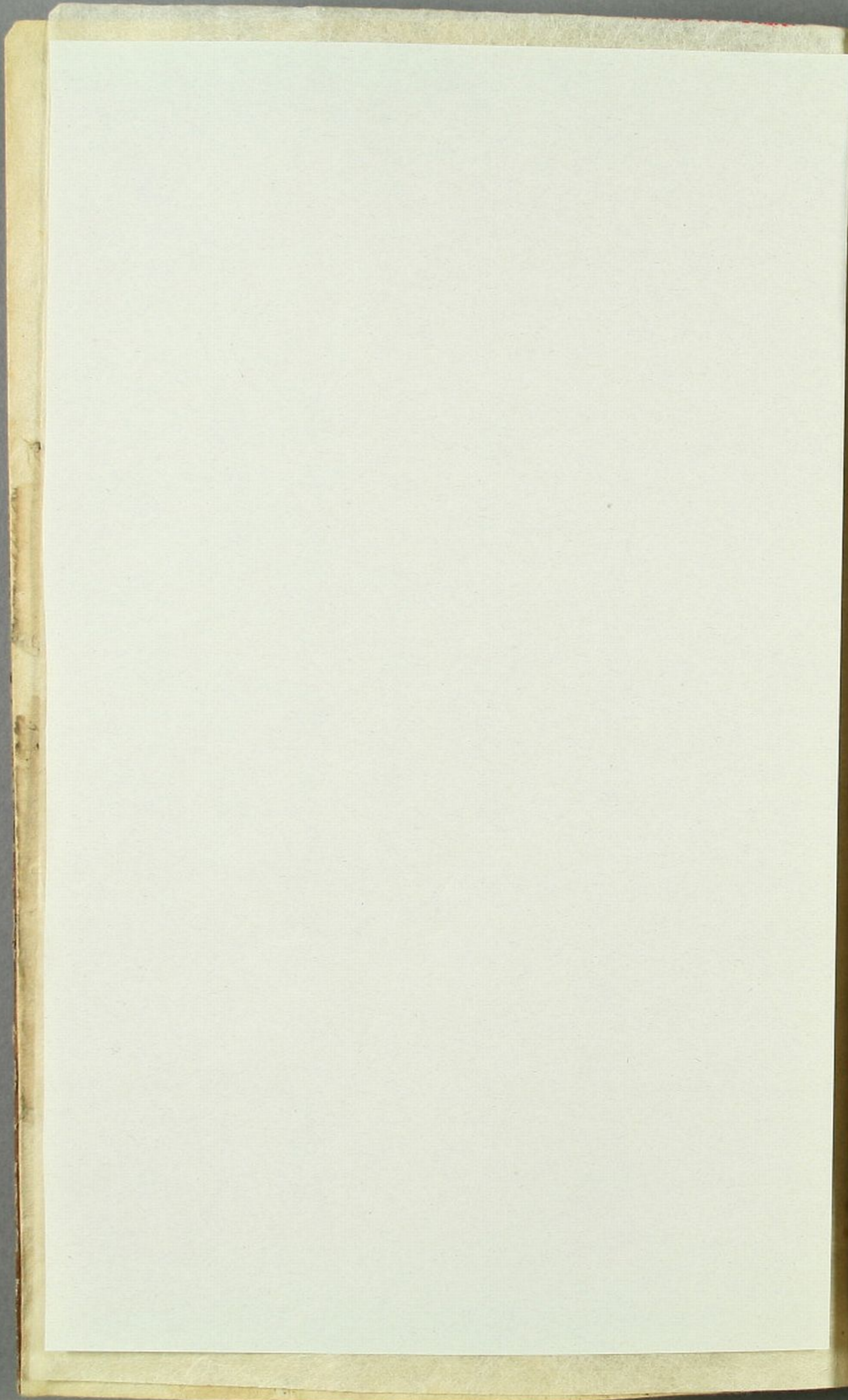


小角より一と法して高の二と法よも二と法
は此二より高の二をわけて二二の四と法よ
なき又あるよ高の二かくれを二四の八坪と
かりるれを突はしてひき揃るり

此、新編塵劫記 田光由 開極鏤梓

以壽其傳自今以後行于世為算法
指南者如合符節後生勲旃勿輕忽

于時寬永第四曆龍集疆梧單闕
仲權好日辰西嶺舜岳野釋玄光
以跋



この寛永四年の序を有する四巻本
塵劫記は上下二冊より成り、下冊は
第三、第四の巻を含む。この書物
はその完本である。

最後の跋を見よ。

昭和十五年二月 小倉金之助



